

平成18年度

中英研會報

第65号

東京都中学校英語教育研究会

平成18年度 行 動 目 標

東京都中学校英語教育研究会は、21世紀における中学校英語教育のなお一層の充実・発展を目指して活動することにその意義を有するものである。

よって、つぎのような行動目標のもと積極的にその活動を推進する。

1. 組織の充実とその活性化を積極的に図る。
 - (1) 都中英研の組織がより強固なものとなるようその充実を図り、改善を行う。
 - (2) 都中英研の各種事業により多くの教員や学校が参画することを通して、その活性化を積極的に図る。

2. 財政基盤の充実を積極的に図る。
 - (1) 従来の事業内容を見直し、経費の節減を積極的に図る。
 - (2) 新たな事業の展開を積極的に行い、収入源の確保を図る。
 - (3) 会費制の導入について積極的にその検討を行う。

3. 人材の育成を積極的に図る。
 - (1) 有能な人材を発掘し、リーダー層の育成を積極的に図るとともに、英語教員全体の資質向上を推進する。
 - (2) 教員の資質向上を目指した研修事業を積極的に企画し遂行する。

4. 調査・研究機関の充実を積極的に図る。
 - (1) 英語教育に関わる基礎的事項や活動実態についての調査活動を積極的に遂行する。
 - (2) 英語教育に関わる今日的かつ実践的な課題についての研究活動を積極的に遂行する。

5. 英語教育に関わる関係機関や関係団体との連携を積極的に図る。
 - (1) 「全英連中学部会」を「全中英協」に代わる組織として積極的にその改善・充実を図る。
 - (2) 文部科学省や東京都教育委員会との関わりをより充実させる。
 - (3) その他、英語教育に関わる関係諸団体との関わりをより充実させる。

6. 英語教育に関わる各種情報の収集ならびにその発信を積極的に図る。
 - (1) これまでの広報媒体を活用して、各種情報の発信を積極的に行う。
 - (2) H.Pの活用を図り、それを通して各種情報の受・発信を積極的に行う。

目 次

●都中英研のめざすもの	備里川正人	1
●小中連携の視点を踏まえた中学校英語科の指導のあり方	岩崎紀美子	2
●外国語（英語）に関する研修について	田谷 至克	4
●小学校英語活動と中学校との連携（7）	太田美智彦	6
●Why are we teaching English ?	Brian T. McDonough	8
●実践研究		
(1) 東京都英語学芸会 劇の部優勝	佐藤由美子	9
(2) 東京都英語学芸大会 スピーキングの部優勝	須賀 英夫	11
(3) 発信型コミュニケーション能力を育てる指導	鶴田 峰子	12
(4) 4年次研修の取り組み	各務公仁余	13
(5) 東京教師道場について	谷村 亜紀	18
(6) 英語学習大会への参加を通じて	佐藤 勝也	20
●各部報告		
・総務部報告	飯島 光正	22
・事業部報告（1）～（2）	横山 達也	23
・調査部報告	廣田 幸男	25
・研究部報告	北原 延晃	27
・出版部報告	井田 宗宏	28
●研究大会報告		
・第46回 十四大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会（大阪大会）	田幸 徹	30
・第56回 全英連総会・全国英語教育研究大会（東京大会）	坂下 孝憲	31
・第30回 関東甲信地区中学校英語教育研究協議会（千葉大会）	中村 馨	32
●各地区活動状況		34
●中英研事業報告		50
●中英研会則		52
●役員一覧		54
●あとがき		59

『この1年を振り返り』

—都中英研のめざすもの—

会 長 備里川正人
(足立区立第六中学校校長)

1年がたつのは本当に早いものである。教育界は夏休み以降、いじめの問題で大揺れに揺れ、そして高等学校の未履修の問題は、中学校まで履修調査はおよび、どちらの問題も、残念ながら取り返しのつかない結末までに発展した。

さて、都中英研と他の組織に関連するものとしては、大きな改革があった。長い歴史と伝統を築き上げてきた「全中英協」の組織が「全英連」と組織改善を図り、本年度をもって発展解消をした。そして「全英連」という大きな組織の中で“中学校部会”と“高校部会”という新たな形をつくり、中学校と高校の関係が更に緊密になり、その証しの1つとして本年度11月の“全英連東京大会”は大成功をおさめた。参考までに、今までは3年に1回開催された東京大会も、次の開催は7年後になる。

また同じ11月に開催された“関プロ千葉大会”も、千葉県の先生方の努力と情熱で大成功をおさめた。“関プロ大会”の開催年にあたっては、理事会に於いて改革という視点からいろいろと議論はあったが、結論はやはり毎年開催することにした。大きな決断である。

そしてあまり目立たないが、政令十五大都市の会合も着実に歴史をかさね、今年度は大阪で大会が開催された。

いよいよ都中英研の活動を振り返ってみると、新しく本年度より発足したプロジェクトチームをはじめ、それぞれの部が本来の活動にとどまらず、更に進化した形で研究や活動を進めてきた。例えば出版部の今までの活動と言えば、本来の出版に関する広報活動に徹した、どちらかと言えば縁の下の力持ちのような存在であったが、部員の仲間同士でお互いの授業について話し合い、研究を深めあった。大きな第一歩を踏み出したように思える。

このように都中英研部員自らの切磋琢磨する姿勢こそが、多くの英語教師に刺激を与え、それが最終的には生徒に還元される教育活動にもつながればと期待するところである。

最後に今後も都中英研が一段と力を入れなければならない課題は、本年度の行動目標にも掲げられた“人材育成を積極的に図る”ことである。“人材育成なくして、都中英研の発展なし。”永遠の課題でもある。

小中連携の視点を踏まえた中学校英語の指導の在り方

東京都教育庁指導部義務教育心身障害教育指導課 指導主事 岩崎紀美子

「英語が使える日本人」の育成のための行動計画案（平成15年3月文部科学省）にもあるように、これからの国際社会を生きていくためには、英語を使うことができる日本人の育成が求められている。英語科の目標にある「実践的なコミュニケーション能力の基礎」を養うことは、まさしくこのことにつながっていくものであり、中学校のみならず、小学校での英語活動を踏まえながらも系統的・計画的に育成していく必要がある。

現在、小学校において、総合的な学習の時間に位置づけて「英語活動」に取り組んでいる学校は85.4%にもものぼり、ALTや地域人材を活用して「聞くこと・話すこと」を中心とした体験的な活動が行われている。このような小学校における英語活動の実態を踏まえて、中学校英語科においてどのような指導が求められているのか、小中連携の視点から述べてみたい。

1 小学校英語活動のねらいとその取組方

小学校における「英語活動」のねらいは、言語習得を主な目的とするのではなく、興味・関心や意欲を育成することである。そのためには児童の実態をとらえ、「児童」にとって身近な英語を把握することが必要である。さらに、「したい」「言いたい」ことを態度などから判断して活動内容に生かし、教材化していくことが大切である。

このねらいに則した授業を行うためには、次の3点に留意する必要がある。

- (1) 中学校の学習内容を先取りすることは避ける。
- (2) 身近で簡単な英語を聞いたり、話したりする活動を中心に行う。
- (3) あいさつや歌、ゲームなど、子どもが自然に英語で話せる活動が望ましい。

小学校英語活動における言語材料、語句・表現としては、例えば次のようなものが挙げられている。

- (1) 歌
- (2) あいさつの表現
- (3) 人間関係に関する語句と表現
- (4) 数字（数・値段・年齢・時間）に関する語句と表現
- (5) 場所（建物、道順、国の名前）に関する語句と表現
- (6) 季節・月日・曜日・朝夕に関する語句と表現
- (7) 天候に関する語句と表現
- (8) 行事（七夕・運動会・祭り）に関する語句と表現 等

2 小中連携の視点を踏まえた英語科の指導

中学校においては、「小学校でどのような活動を行ってきたか。」ということを知ることが大切である。そのためにも、小学校と中学校で連携を図り、英語科の指導を行うことは重要である。

(1) 「内容の連携」の視点

小学校においては、体験的な活動が中心となるため、英語活動における言語材料の例に挙げるような、歌やあいさつといった、「話すこと」「聞くこと」が活動の中心となっている場合が多い。そのため、中学校に英語科の導入期においては、これらのことを踏まえ、すぐに英文を読むことから始めるのではなく、あいさつや自己紹介といった、言葉で「表現する」ことから始めると小学校で行った英語活動が生かされてくる。

(2) 「学習活動の連携」の視点

小学校においては、歌やチャンツなどを用いて英語活動を行っている場面も多々みられる。中学校では、音声面においてさらに正確さを求めてフォニックスを用いることも有効である。さらに、小学校では、文字指導を行っていないため、教科書を見ても「読めない」という現象が起こりがちである。この点において中学校では、1時間の授業展開の中で、教科書の内容をpicture cards等を用いてoral introductionから行うと内容理解が容易となり、読みやすくなる場合が多い。中学校の導入段階では、「読むこと」は「音読」に重点をおくことが求められる。音読を行うことによって、前述のフォニックスが生かされてくるのみならず、コミュニケーション活動の一端を担える場合があるからである。特に音読指導では、accuracyか、fluencyかということが議論になることがあるが、fluencyに到達するためにも、前段階ではaccuracyを大切に指導を行うことが重要である。

(3) 「教員間・学校間の連携」の視点

小学校では、学級担任を中心として、学年全員の教員やALTとTTを行って指導をする場合が多い。しかし、小学校では英語専科の教員がいないため、指導方法に苦慮していることもある。小中連携教育の一環として、小学校の教員が中学校英語の授業を見学に行ったり、逆に中学校の教員が小学校へ出前授業を行ってはどうか。情報交換を行うことにより、指導方法の創意工夫を生かすことができる。

文部科学省「小学校英語活動実践の手引き」（平成13年）より一部抜粋・作成

東京都教職員研修センターにおける 外国語（英語）に関する研修について

東京教職員研修センター 統括指導主事 坂本純一
指導主事 松永 透・田谷至克

平成18年度は、外国語（英語）に関する選択課題研修（自己の課題に応じて選択できる研修）を下記のとおり実施し、多くの先生方が受講されました。

<選択課題研修 英語ⅠA・ⅠB>

「英語指導の基礎」

○ねらい…学習指導要領の理解や学習指導案の作成、授業研究等を通して、授業づくりに必要な知識や技能を習得する。

①「学習指導要領の内容と基礎的な授業展開の理解」

講師	文京区立第十中学校	中村 馨 校長先生
	都立小平高等学校	川畑 啓三 副校長先生

②「学習指導案の作成と指導事例等の理解」

講師	文京区立第十中学校	小柳 守生 先生
	都立戸山高等学校	谷口 幸夫 先生

③「指導の実際と授業展開・指導方法等の理解（授業研究）」

講師	豊島区立西池袋中学校	飯島 光正 校長先生
	豊島区立西池袋中学校	伊地知義信 先生
	多摩市立和田中学校	横山 達也 先生
	都立墨田川高等学校	高橋 聡 先生

<選択課題研修 英語ⅡA・ⅡB>

「表現力や理解力を高める指導と少人数指導の充実」

○ねらい…表現や理解の能力を高める指導技術や少人数学習集団での評価の工夫を通して、授業を改善するための知識や技能を習得する。

①「聞くこと・話すこと的能力を高めるコミュニケーション活動の実際」

講師	財団法人英語教育協議会	Leslie Sagara-Yoshimura 先生
		Shane Simon 先生
		Jonathon Campbell 先生
		Paolo Faresi 先生

②「少人数学習集団による指導と評価の実際」

講師	三鷹市立第三中学校	安原 美代 校長先生
	都立国分寺高等学校	本間 良明 先生

小学校と中学校との英語教育の連携（7）

－小学校英語活動の現状と小・中の連携のあり方－

元中英研会長 太田 美智彦

1. 国としての小学校英語教育の方向性

昨年1年間に、小学校英語教育の方向性について新たな動きが見られた。3月末に、中教審外国語専門部会は「小学5年生から英語を必修化すべきだ」と提言をした（3月28日読売新聞）。それは「教科」としてではなく、「総合的な学習の時間」の中などで、週1回程度行うのが適当とし、「中学校の英語教育との円滑な接続」を図るため、共通の教育内容を5、6年生は設定する必要があるとしたのである。

9月末に、伊吹文科相は小学校での英語必修化について「現状では時期尚早」と慎重姿勢を示したが、その後の会見で中教審の検討結果は尊重すると述べている（9月28日日経新聞）。

10月に教育再生会議が発足し、今後検討すべき重点課題の1つに「小学校での英語教育」も取上げられそうである。その審議経過には、関心をもって見守っていきたい。なお、文科省の事務方では、教材等の準備を進めているようである。

2. 公立小学校における英語教育（活動）の現状

昨年7月～8月にかけて、ベネッセ教育研究開発センターは、全国公立小学校教務主任3,503名対象に、第1回小学校英語に関する基本調査を実施した。それによると、何らかの形で英語教育を行っているのが、94.0%、学年別に見ると、1年80.5%、2年80.7%、3年96.0%、4年96.8%、5年97.3%、6年98.4%となる。年間時数は、15時間未満の学校が過半数を占める。高学年では35時間（週1回程度）以上実施している学校も15%あった。実際の授業で中心となる指導者は、年間時数が少ない学校ほど外国人指導助手（ALT）が中心で、35時間以上になると学級担任がALTを上回る。また、英語教育を行ううえでの条件で不十分と考えているものに、教材の開発や準備のための時間92.7%、中学校との接続・連携89.5%、教員研修89.5%等があり、これらが上位を占める。東京都でも各区市等で、小中の接続・連携を課題に取り組み始めているところが見られる。自治体によっては、数教科でまたは学校教育全体で小中一貫教育に取り組んでいる。

3. 小学校と中学校との連携のあり方

（1）小中の連携を考えるうえでの留意点

中学校は小学校の英語活動で育まれた資質・能力を尊重する。

小学校では、単語や文法などの学習活動でなく、子どもの関心事に合わせたトピ

ックスや場面設定（買い物ごっこなど）をして、学級担任やALTなどと英語によるコミュニケーション活動（英語活動）を繰り返して行って英語に慣れ親しんでいく。その楽しい活動の過程の中で、人と関わることの大切さ、自分で判断し、決定し、行動する力、自己を育てる力、主体性などを育てる。ALTと接する中で外国人にもものおじしくなり、自信や意欲をもつようになる。そのような資質・能力を尊重していくことが重要である。小学校では、英語嫌いを作らないように努める。

（2）小・中連携の視点と方法

1）カリキュラムの接続を図る

① 小・中英語教育の目標に見る接点

小学校英語も、中学校英語と同様「学習活動」ではなく、「コミュニケーション活動」であるべきである。特に、小学校英語を通じて期待できる最大の成果は、「関心・意欲・態度」で、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」が一層重視される。中学英語は、コミュニケーション能力の言語の知識・理解、技能の習得が重視される。

② 小中の題材、言語材料に見る接点

小中の年間指導計画を見比べてみると、「挨拶」「自己紹介」「買い物」「道案内」「電話」など、共通のトピックが見出せる。同じトピックで小中の発達段階に応じて交互に授業を実践し検証を重ねていくことで、場面や言語材料の面での無理のない接続を図っていくことができる。中学校区別にグループ分けし、それぞれ異なるトピックで授業検証し、その成果を持ち寄ることで小中一貫カリキュラムが作成される。

2）小学生と中学生の交流を図る

例えば、小学校6年生が近隣の中学校を訪問し、中学2年生とグループを作り、中学生がリードして自己紹介やゲームなどを通して、互いに親しむ。小学生は中学生のように英語を話せるようになりたいと願い、それが英語学習の動機付けにもなる。出掛けたりすることができにくい場合には、テレビ会議システムを活用するのも面白い。教室にいながらにして画面で相手の顔を見ながら、児童と生徒が会話を楽しむことができ、コミュニケーション活動に一層興味をもつようになる。

3）中学校は入門期指導の見直しを図る

中学校は、これまで小学校での英語活動体験者を受け入れても、学校格差等もあって、初めて英語活動を始めるものとして指導してきた。しかしこれからは、小学校でたとえ週1時間でも計画的継続的に英語活動を実施してくるとなると、特に入門期指導のあり方を見直す必要がある。アルファベットや本文に入る前の身近な単語やあいさつ、教室英語などには既に親しんでいて、授業第1時間目から生徒は英語で自己紹介するようになるであろう。ALTから話しかけられてものおじせず、積極的に答えていこうとするであろう。中学校に入っても意欲的に取り組んでいけるよう配慮する必要がある。

Why are We Teaching English?

Mr. Brian McDonough
(Manager, Curriculum Development Dept., INTERAC CO., LTD.)

Since the introduction of the new Course of Study in 2002, the landscape of English Teaching in Japan has changed greatly. Some may say that Japanese society, too, as well as the students who come to class every day have changed as well. Some JTEs may say “everything’s fine” while others mutter “nothing could be worse” and to explain the manifold reasons or manifestations of these changes is a job for History. However, all English Teachers involved in teaching public school English must consider the basic question “Why are we teaching English?” This answer should be divided into two parts: First, teaching English is a way of engaging the students basic Humanity, and fostering the ability to think, learn, judge, and take action on their own and through harmonious action with other students and teachers in class. Notice that this is the primary goal. Secondly, attaining a level of scholastic ability in English by focusing on communicative (not cramming) activities that allows each student to develop their own sense of uniqueness with a positive attitude and high motivation to use English should be a major goal of all classroom English teaching. When these two parts are combined into a method or approach that allows the students to foster and develop their own learning, then that JTE, or that school, is reaching towards the goals and targets that were introduced in the new Course of Study. The challenge of meeting these types of goals and targets shows its results in the most important of ways: the development of students of good character, as the personality and traits developed in school will follow each student long after a JTE’s English lesson is over.

選択授業で取り組んだ

“Taro Urashima and the Sea Princess”

練馬区立豊玉中学校 教諭 佐藤由美子

2年前英語部で取り組んだ“Jimmy Valentine”が都大会で、思いがけなく優勝し、生徒と驚き、そして大きな感動を分かち合った。その時10数年ぶりに見た他校の英語劇の進化ぶり（高度な内容、歌や踊りのパフォーマンス）は、自分なりのやり方でささやかな試みを重ねてきた私にとっては衝撃的で自分はまるで浦島太郎のようだ、と思った記憶がある。勿論その時は2年後「浦島太郎」で再び優勝カップを手にする事ができるなどとは思えないことだったのだが…。

“Jimmy Valentine”に出演した生徒達が卒業した一昨年、英語部は部員が1人になり開店休業状態に陥った。しかし毎年文化発表会で上演してきた英語劇が途絶えるのは残念に思い、2年生の前期英語選択の授業で「皆で英語劇をやってみない？」と呼び掛けた所、大変乗り気になった。初めて選択授業で取り組むので簡単なのが良いと、皆が知っている「一休さん」になった。前期週一回（50分）の授業で仕上げられる10分程度の短い劇だったが、その分自分達でアイデアを出しながらのびのびと思い切って演ずる姿に、こういうリラックスした取り組み方も良いのではないかと教えられた。観客からも「良くわかった。」と好評。生徒達も「自分たちの楽しい英語劇が出来た。」という満足感を持って終わった。そして何より私自身がこの取り組み方に、より自由な拡がり面白さを感じることができたのだった。

そして今回は初めから「前期（4月～9月）の英語選択授業の目標は文化発表会で英語劇を上演することです。」と宣言した。その結果18人（男12人女6人）の生徒が集まった。勿論全員が役をやりたい訳ではなく絶対裏方を希望という生徒もいたが、4月当初から発声や発音の体作りを授業の1部に取り入れ意識を促していった。

5月中旬には脚本を“Taro Urashima and the Sea Princess”玉川大学出版「みんなで創る英語劇」に決定。楽しく華やかな場面が欲しい、去年好評だった日本の昔話を私達も英語でやってみたい、という生徒の希望をもとにほぼ全員が出演でき、内容を理解し易いものとして探したものだ。前期の授業終了の9月末までに劇を仕上げる予定（実際は10月も練習したが）で、毎時間まずゲームや歌、発声で体と気持ちをほぐし、その全員で台本の読み合わせをし、その場面をグループに分かれて演じて発表、というやり方でどんどん進めていった。そして最後の場面が終了した所で、配役の希望を取り、オーディションをして投票で配役を決めたのが1学期の期末テスト終了後の7月初めだった。自分の役のセリフは全部完全に言えるようにしておくことがそれぞれの夏休みの課題になった。

選択授業の回数は全部で15回。そのうちALTのSamuel先生も6回、放課後練習をした10月は2回、指導に当たってくださった。先生は母国カメルーンで演劇をしていたそうで、表現力豊かな先生の的確な指導と助言は生徒の心に強く響いた。

「今のセリフはどういう気持ちで誰に向かっていっているのか、考えてごらん。」

「台本は字で書かれた話だけど君達がセリフと体でドラマを作り上げるんだよ。」
舞台上で龍宮城の別れの場と浦島太郎がお爺さんになった時歌った歌は先生が2年生に授業で教えて下さった生徒達のお気に入りの歌“Listen to your heart”だ。

2学期になり、10月30日の文化発表会に向けて学年で取り組む日本語の劇の練習もスタートを切った。2年生の生徒達は英語劇とは別に全員が劇か展示に分かれて活動する。私もここ4、5年ずっと英語劇と学年劇の両方を担当してきた。今までの英語部の英語劇では放課後、練習と大・小道具や音響、照明、衣装などすべてを自分たちで仕上げてきた。しかし、今回はそうはいかない。どうしようかと悩んでいたときに格好の劇を見つけた。「忘遠卿」柘本真弓作。浦島太郎が地上に帰って800年後、人間に姿を変えた乙姫が人間の身勝手な自然破壊に対する怒りで地球の全てを海に戻そうとする話である。大道具や小道具、衣装が共有できる。2つの劇が1つに結ばれ、学年全体で取り組める事になって行ったのだ！音響や照明もみんな両方を担当してくれた。それゆえ、今回の優勝カップは英語劇の出演者だけでなく、豊玉中の2学年全体で頂いたという誇らしさがあり、嬉しさも更に膨らんだ。

今回の英語劇で学んだ事……生徒の感想より

○自分たちは頑張ればできると思った。 ○何事も一生懸命やれば楽しくなる。

○英語の力が伸びたというのがありますが、一番はみんなで協力して何かを作ると
いうことです。 ○言葉は違ってても表現次第で通じる！

○演技力と発音、協力！！協力がなければ完成しない。

○英語にかかわらず、劇や言葉というのは人と人のコミュニケーションにはとても
大切なものだった。 ○団結 ○表現力 ○演じる楽しさ

○英語は「話して」伝えるほかに感情を表していることによって伝わるんだなー。

○英語でも自分の感性で表現できた。 ○英語の表現や発音について色々学べた

私が今回の英語劇をとおして学んだことは、どんな生徒も仲間の支え合いの輪の中で力を伸ばし、自信を持って光り出す凄い力を持っている、と改めて感じたこと。英語学習の一方法として英語劇がある、という素朴な原点をより多くの生徒と共に求めていくのも、楽しい有意義なやり方ではないかと、強く感じたことである。

最後に永年にわたり発表の場を支えて下さり、今回の劇にも温かく適切な批評をして下さった練馬区の先生方、東京都全体をまとめるという大変な仕事を毎回快くやって下さっている都中英研の先生方、宝仙中、高校の先生方、その他蔭でこの大会を支えて下さった皆様に心からお礼を申し上げます。本当に有難うございました。

“Environmental Protection”

「本校のスピーチコンテスト」

荒川区立南千住第二中学校 発表者 百木田雄亮

この度、ラッキーなことに、本校（英語の授業は各学年2クラスを3つの習熟度別コースに分ける形式）の三年生が優勝カップを手にすることができた。彼がこの大会に出場するまでの流れを紹介する。まず、第1学期末に本校のスピーチコンテストについての概要を説明。原稿は夏休みの宿題とし、第2学期初めに全生徒の宿題の添削、と共にALTとの授業（週1回）でスピーチの練習。その後、（学年別）習熟度別コース内での発表会（予選）を実施。上位入賞者は学年スピーチコンテスト（本選）に参加。学年スピーチコンテスト上位の生徒は本校の文化祭で発表。優勝者は必然的に「荒川区連合スピーチコンテスト」参加となる。この大会で優勝し今回「東京都英語学芸大会」出場となった。以下に本校のスピーチコンテストの実施要項の一部を掲載する。参考にしていただければ幸いである。

「平成18年度 スピーチコンテスト実施要項 英語科」

各自、以下のどれかひとつに取り組むこととする。（すべて3分以内で発表）

- ①暗唱部門（すでにある英文を暗唱）：(例) 教科書の本文、キング牧師の演説、絵本、物語など。
- ②Show and Tell（品物を用意し、英語で説明）：(例) 自分の宝物を見せながら、どうやって手に入れたか、自慢のポイントなどを説明する。
- ③スピーチ部門（自分の考えを英語で発表）：(例)「将来の夢」「～の思い出」「聞いたこと」「私の尊敬する人」など。

※ただし、1年生で荒川区連合スピーチコンテスト（11月7日開催）に出場を希望する生徒は、暗唱部門（①）に参加すること（ペアによるスキットも可）。
2年生は、暗唱部門（①）かスピーチ部門（③）に参加すること。
3年生は、スピーチ部門（③）に参加すること。原稿の提出は9月1日。この時には、完璧なものではなくても良い。予選会までにALTとの授業でより良いものにしていく。

*習熟度コース内発表会（予選会）：9月19日（火）～29日（金）

審査員：生徒全員+担当の先生1名

*学年スピーチコンテスト：10月17日（火）

2年（④校時）、1年（⑤校時）、3年（⑥校時）

審査員：各習熟度コースより生徒代表1名+先生2名+ALTの計6名

表彰：各学年の上位入賞者には Gold, Silver, Bronzeの各賞を授与

第30回 関東甲信地区中学校英語教育研究協議会千葉大会
第二分科会研究主題：発信型コミュニケーション能力を育てる指導
発表テーマ：入門期の段階的な指導を通して、英語の
表現能力を高める指導方法の工夫

中央区立銀座中学校 教諭 鶴田 峰子

1. はじめに

関東甲信地区中学校英語教育研究協議会千葉大会が、平成16年11月10日（金）に関東甲信地区9都県の英語教育の関係者約700名が参加し開催された。午前の全体会では千葉市民会館で大会主題「国際社会を生きる日本人の育成ー基礎・基本の定着から実際使用へ発展的指導を通してー」の提案、文部科学省初等中等教育局視学官の平田和人氏による記念講演、午後は千葉県教育会館の2会場に分かれ、5分科会でビデオによる公開授業、県内提案、県外提案が行われた。県内提案は、千葉県下の中学校が各支部毎に連携をし共同研究を深めた成果が伺える内容であった。

2. 関ブロ大会での発表テーマ

私は第二分科会で、「入門期の段階的な指導を通して英語の表現力を高める指導法の工夫」と題し、中学入学後の最初の英語の授業から、中学3年間を見通した取り組みについて、日頃の実践についてまとめ発表した。授業における基本的な考え方として、「①生徒の外国語学習の動機を大切にする。②反復練習で言語材料の定着を図る。③学習の成果を生徒自身に認識させて学習意欲を高める。」ことを常に意識し、指導計画を立て実践している。

3. 発表内容

下記の内容について、具体的な指導内容・方法をハンドアウトとパワーポイントにまとめ、文字と映像で紹介した。

(1) 中学1年における授業での取り組みについて

①外来語の活用（生徒の既知情報を生かす指導）、②実物、模型、絵、写真等を使い名詞を導入（教科書以外の身近かな語も導入）、③丁寧なアルファベットの発音練習（後日フォニックス指導に活用）、④単語の発音練習（音とつづりの関連を意識した指導）、⑤コロケーションを意識した指導（動詞の導入に合わせ関連語句を導入）⑥ Oral Interaction で新教材を導入（生徒との Q&A を大切にする）、⑦ Oral Reproducing で学習のまとめ（生徒による再現で指導目標言語の定着を確認）

(2) 表現力を高めるための指導内容について

- ① Speech 指導――1学期の指導内容を、Speech へと発展させる指導
- ② 学校行事と関連づけた指導――姉妹校との交流で校舎案内、日本文化紹介
- ③ ALT による中央区統一 Speaking Test――5年間の取り組みについて

第1学年英語科 学習指導案

学校名	東久留米市立大門中学校
学級	第1学年A・B組 少人数（生徒数21名）
実施日時	平成18年9月29日（金）第2校時
場所	第2多目的室
指導者	教諭 各務公仁余 講師 西田 立子

- 1 単元名 New Crown English Series New Edition 1（三省堂）
DO IT TALK2 トイレはどこですか？〈場所をたずねるとき〉

2 単元について

（1）単元観

博物館を訪れたミンが、トイレがどこにあるか係員にたずねる場面である。

1. 場所をたずねるときの表現

場所をたずねるといのは日常的なことであり、まさに実践的な表現である。ここではWhere is～? 「～はどこにありますか」と簡単にたずねる表現を学ぶ。

2. 場所や位置を説明するときの表現

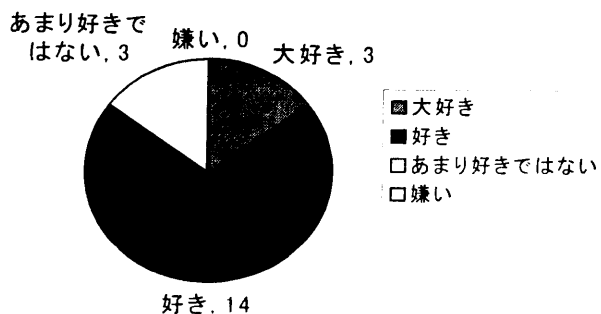
ここでは主に目印となるものを活用してit's～. 「それは～です。」と説明する表現を学ぶ。またon「～の上（表面に接した状態）に」 in「～の中に」 under「～の下に」 over「～の上（表面を離れた真上）に」 near「～の近くに」など、位置を表す前置詞をまとめて導入することで生徒の表現の幅を広げる。各語のイメージが伝わるようにする。

（2）生徒観

9月上旬、対象生徒（20名）にアンケートを実施した。以下はその質問項目と結果である。

《アンケート結果》

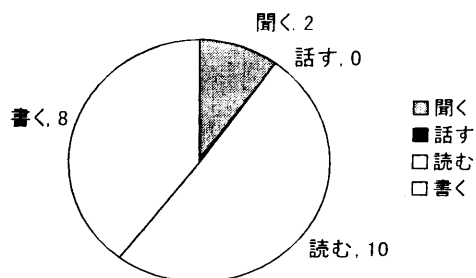
Q1 英語は好きですか。



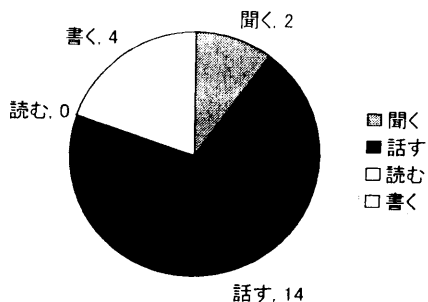
Q2 家庭でどれくらい英語を勉強していますか。

－ 平均時間（平日）20.5分

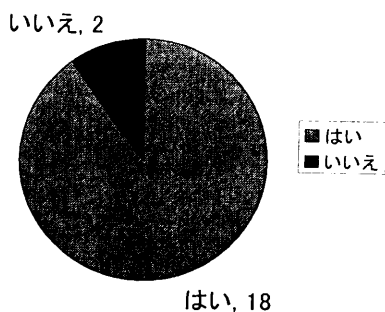
Q 3 英語の活動で得意だと思うものはどれですか。



Q 4 英語の活動で苦手だと思うものはどれですか。



Q 5 これから英語を使えるようになりたいですか。



Q 6 英語を使ってどんなことをしたいですか。

- ・外国の人と話せるようになりたい。
- ・海外旅行に行きたい。
- ・海外で実際に外国の人と会話をしてみたい。
- ・外国でしゃべれるようになりたい。
- ・英文を聞いて書けるようにしたい。
- ・外国の人に道を聞かれたときに答えたい。
- ・アメリカに行って、外国人と友達になりたい。

5月より少人数授業を実施している。A・B組(計62名)を3クラス(各20名~21名)に分けて授業を行っており、週1回講師とT Tの形で3クラスを順に指導している。一人ひとりの学習状況を把握し適切な助言の出来る環境だと感じている。対象クラスは当初より担当しており、進んで自己主張するタイプではないが英語に興味をもち地道に学習する生徒たちである。アンケートからも英語学習に意欲的であり、何らかの目的意識をもって臨んでいる生徒が多いことが分かった。

毎回の授業では基礎学力の定着を目標に、小テストを行っている。そしてそのための練習問題を宿題にしている。その効果もあって新出語句・基本文を「書く」力については見受けられる。合わせて家庭学習習慣など基本的学習姿勢も身に付いてきており、ほとんどの生徒が予習を欠かさない。また音読指導にも努めている。授業だけでなく音読カードを使った自主学習を勧めている。その成果として発音やアクセントに気をつけながら流暢に英文を「読む」ことの出来る生徒が増えている。アンケートでは言語活動の4領域中で得意な活動として「読むこと」と答えた生徒が全体の50%。「書くこと」は40%であった。この結果からも力を入れて指導している活動に生徒が自信を持っていることがうかがえる。一方で「聞くこと」「話すこと」に苦手意識を抱きつつある生徒が多いと分かった。1対1の会話練習や、複数の相手へのインタビュー活動など音声を重視したコミュニケーション活動も適宜取り入れてきた。そうしたアクティビティーに前向きに参加しようとする生徒が多いが、語彙力不足もあり思うように自己表現できないもどかしさが伝わってくる。また「読む」「書く」活動に比べて「聞く」「話す」活動の機会が不足していたことも反省点である。まだ無邪気で幼さが残る中学1年という年代を考え、ゲーム的要素も取り入れた活動や身体を動かす活動や作業を通じて学習効率をのばしていきたい。実態に応じた教材やコミュニケーション形態の工夫で、興味関心を持続させつつ反復練習を行わせることが課題である。そうして英語を学んで使うことの面白さを体感させる指導を工夫していきたい。

既習事項としては、4月に簡単なあいさつと身のまわりの英単語を発音することから入り、アルファベットの読み書き、be動詞を使った自己紹介、他紹介が出来るようになった。そして一般動詞とその疑問文・否定文、単数形と複数形を学習した。英語の語順・日本語との基本的な構造の違いについても理解しているはずである。また疑問詞ではwhat「何」(What is~?)とIt'sを用いた答え方を学んでいる。Yes/Noで答える疑問文とのイントネーションの違いについてもおさえている。よって新たな疑問Where「どこ」を用いた表現Where is~?とその答え方It's~.についても混乱なく理解できるはずである。これまで習得した言語材料を復習しつつ進めていきたい。

○ 指導観

実際の場面や絵などを用いて場面に即した会話練習を行いたい。授業中のコミュニケーション活動を通して繰り返し練習することで、Where is~? It's next to「on/in/under/over/near」the~.などの表現を定型句として覚えさせたい。またこの課を通して、積極的に相手に話しかけたり意思疎通を図ろうという態度を育成したい。

5 単元の目標

Where is~?の表現を用いて場所やものがどこにあるかあるかたずねたり、It's~.を使ってそれに適切に応じることが出来るようにする。

6 単元の評価基準

	ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
聞くこと			①聞いた内容について正しく内容を聞き取ることができる。	
話すこと	①（言語活動への取り組み）音読練習や Practice TRY ロールプレイング等の言語活動に、積極的に取り組んでいる。 ②（コミュニケーションの継続）WORDBANKの単語を使うなどして積極的に場所をたずねたり、答えようとしている。	①（正確な発話）「場所を訪ねる」表現を正しく使うことができる。 ②（適切な発話）「場所をたずねられた」ときに適切に応じることが出来る。		①（言語活動についての知識）「場所をたずねる」表現や場所や位置を表す前置詞の意味を理解している。 ②（文化についての理解）人に「ものをたずねる」ときの会話の流れや基本的な表現を理解している。
読むこと	③場面に応じて工夫した音読をしようとしている。 ④相手の目を見ながら音読出来るまで繰り返し練習している。	③正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読できる。	②英語で書かれた内容について理解することが出来る。	
書くこと	⑤読みやすい字で書いたり、わかりやすくノートにまとめたりしている。			③文構造についての知識がある。

7 指導計画と評価方法

時間	学習内容	評価							
		関心		表現		理解		知識	
		評価規準	評価方法	評価規準	評価方法	評価規準	評価方法	評価規準	評価方法
1	・Where is～?It's～. のことばの機能と使い方の確認。 ・本文の内容理解、本文の音読。	ア③ ④ ⑤	*観察 *音読カード *ノート点検	イ③	*観察	ウ②	*観察	エ② ③	*観察 *ペーパーテスト
2本時	・暗誦発表。 ・Where is～? を使った場所をたずねる表現とIt's～を使った答え方の練習・演習。 ・in/on/under/overなど場所や位置を表す前置詞の理解。	ア① ②	*観察	イ① ②	*観察 *ワークシート	ウ①	*観察 *ワークシート	エ①	*観察 *ペーパーテスト

8 本時の展開

(1) 本時の目標

- 1 Where is～?の質問を聞き、前置詞を使ってものの場所や位置を正確に伝えることが出来る。
- 2 ペアワークなどの言語活動に積極的に取り組むことが出来る。

(2) 観点別評価基準

- コミュニケーションへの関心・意欲・態度
 - ・ペアワークなどの言語活動に積極的に取り組んでいる。（ア①②）
- ◎ 表現の能力
 - ・英語を用いて相手にたずねたり答えたりすることが出来る。（イ①②）

○ 理解の能力

・聞いた内容について正しく内容を聞き取ることが出来る。(ウ①)

○ 言語や文化についての知識・理解

・「場所をたずねる」表現や場所や位置を表す前置詞の意味を理解している。(エ①)

(3) 学習の展開

時間	項目	○学習活動・学習内容	◇教師の支援・留意点 ◆評価	補助教材
1分	導入	1 あいさつ Good morning,everyone. How are you?/ I'm fine,thank you.	◇大きな声であいさつすることで、英語学習の雰囲気を作り、英語を使う準備を進める。 ◇既習の英語表現・あいさつ表現を繰り返し口にする事で常に活用できる状態にする。	
4分		2 小テスト ・復習の単語8語(数字) ①練習用紙を見ながら全体で答えを再確認する。 ②宿題プリントの提出。 ③テストに取り組む。	◇基礎基本の定着を目的にしたテストのため、十分確認と復習をした後に行う。 ◇宿題提出は徹底して指導する。	・小テストシート
10分		3 スキットの暗誦発表(ペアワーク) ○宿題として暗誦してきた本文のスキットをペアで順にクラス発表する。	◇人前でも堂々と英語を使える容姿を身につける練習である。少人数の利点を生かし、全員に発表の機会を与える。発表順は挙手により自分から発表できるようながす。 ◇発表後にはほめ言葉や前向きな声かけをし、自信をつけさせる。	・スキット用役割割カード
13分	展開	4 場所をたずねる表現・答え方の確認と位置や場所を表す前置詞の導入 ○前時学習した場所をたずねる表現を確認する。 A : Where is the~?「~はどこですか」 B : It's~. 「 ~です 」 ○near以外の位置・場所を表す前置詞の説明を理解する。 in / under / on / over ○各語のイメージをつかみながら発音練習をする。 ○位置を表す前置詞のイメージを確認しながら、各自ノートに板書を写す。 ○さらに絵やマスコットを使った例で教師の質問Where is the~?に It's を加えたIt's+前置詞the~.を使って答える練習をする。	◇生徒に問いかけながら確認する。 ◇下がり調子のイントネーションに気をつけて発音させる。 ◇日本語説明は必要最小限に止め、各語をイメージで捉えられるようにする。 ◇ノート整理の時間に机間指導で個人の理解度を確認、助言する。	・板書用基本フレーズ ・サイコロ ・マスコットと箱 ・拡大絵
15分		5 コミュニケーション活動:『Q&A Bingo』 ・基本表現を使ったQ&A(ペアワーク) ①説明を聞き活動内容と方法を理解する。 ②ワークシートの表現を教師の後ろについて発音練習する。 ③列ごとに向かい合ってQ&A Bingoを行う。 ④一人がビンゴになった時点で終了。	◆評価◆1 Where is~?の質問に対し、前置詞を使ってものの場所や位置を正確に伝えることが出来ているから。《生徒の様子(表情・姿勢・返答)の観察から判断》 ◇全体で正しい英文を確認することで全員が問題なく活動に参加出来る準備をする。 ◇スピーディーに出来るだけ多く基本表現を繰り返すことと、相手にははっきり聞こえる声で返答するようにうながす。	・ストップウォッチ ・ワークシート
7分	整理	6 本時学習したことを振り返る ○Bingoで使用した表現の中から、教師の質問の答えを英語で書く。 ○答え合わせをする。 ○ワークシートを提出する。 7 あいさつをする Goodbye, everyone.	◆評価◆2 ペアワークなどの言語活動に積極的に取り組もうとしているか《期間指導での観察とワークシートから判断》 ◇本時の重要表現・語句の確認をする。 ◇各自に一時間の学習を落ち着いて整理させる。 ◇次回の予告をし、動機付けをする。	

平成18年度「東京教師道場」
中学校外国語（英語）第2班研究報告

東京都練馬区立関中学校 教諭 谷村 亜紀

I. 研修の班テーマ「学年末・卒業時のゴールを設定する」

研修をはじめるとあって、中学英語2班テーマとして「学年末・卒業時のゴールを設定する」という目標を立てた。その目標達成に向けて、4月から助言者の先生方のご指導のもと、メールでの意見交換や月に1回程度の授業研究・協議を行い、それぞれの授業の改善に努めた。（助言者：相沢秀和先生・北原延晃先生）

II. 学年末の到達目標

Iの班テーマに基づいて、担当の第1学年の到達目標を以下の様に具体的に設定した。

【聞くこと】

- ①教科書・対話文や物語文などの英語を聞いて必要な情報をつかみ、トピック・概要を理解することができる。
- ②会話で相手の言っている内容やチャット・スピーチ・スキットの内容を理解することができる。

【話すこと】

- ③間違いを恐れず、学習した英語を表現しようとすることができる。
- ④あいづちやとっさの一言などチャットや普段の授業の会話の中で使うことができる。
- ⑤簡単な質問ができる。また、適切な応答ができる。
- ⑥簡単なスキットやジェスチャーを表情を加えながら演じることができる。

【読むこと】

- ⑦教科書を正しいアクセント・発音で音読することができる。
- ⑧簡単な絵本等初めて読む文でも必要な情報・物語の流れ・概要を掴んで読むことができる。

【書くこと】

- ⑨Unitごとの文法事項・新出単語を用いて、文を書くことができる。
- ⑩自分のことや友達を紹介する文・日記・手紙文など学習した内容を用いて書くことができる。
- ⑪スキットの内容を辞書を用いてオリジナルのシナリオを作ることができる。

III. 授業実践（第8回 授業研究より）

- (1) 単元名 Unit 9（「クリスマスがやってきた」）
(New Horizon English Course 1)
- (2) 本時の目標 - 現在進行形の疑問文の理解と定着
- (3) 本時の展開

Warm-Up	① 歌 “We Wish You a Merry Christmas” ② Chat (ペアによる1分間チャット)
Review	前時の内容(現在進行形)の絵を英語で説明する。 動詞カードでのパターンプラクティス
Oral Introduction Of New Item	現在進行形の疑問文 “Is he/she~ing?” ・ “What is he/she doing?” をシルエットクイズで導入する。
Reading Textbook	・教科書の内容に関する簡単な口頭導入・新出語句の導入 ・本文の内容理解 (T/F question, Q&A) ・本文 Reading Practice (T-S/Shadowing/Pair)
Activity (ペア活動)	ジェスチャーゲームを通して新出文法をOutput する。 A : What is he/she doing? B : Is he/she -ing? A : Yes, he/she is. ・ No, he/she isn't.

(4) 目標達成に向けての本時における具体的な指導実践

- ・歌の歌詞Reading/Singing の実施 (⑦)
- ・Chat→夏季集中研修でご指導を受けた本多敏幸先生(中学英語1班助言者)のOne Minute Chatを参考にさせていただき2学期より導入した。(②・④・⑤)
(ペア活動の定着にあたっては北原延晃先生のマシンガンQ&Aを参考にさせていただく)
- ・本文のOral Introduction、T-F Question/Q&Aによる本文理解 (①)
- ・横断的に相づちやとっさの一言を授業で取り入れ生徒と自然な英語で話す。(④)

(5) 授業研究協議会

- ・1時間の中で、文法導入・教科書本文・活動の内容は多すぎた。
 - ・生徒がよく英語を使っていた。 ・ペアでの助け合いをしていた。
 - ・明示的・暗示的の両面から指導していた。
 - ・全体だけでなく個に対しての読み確認等を行った方がよかった。
- * 班テーマの例として助言者:北原延晃先生実践ビデオで見せていただいた。

1年生のゴール「絵本音読」 3年生ゴール「日本文化の紹介」

(6) 合同協議

主題「小・中・高の英語活動・教育の連携」

～特に中三から高一への連続性をWritingの指導のあり方において～

をテーマに中学・高校合同分科会に分かれて、中学3年2・3学期のWriting作品を参考にしながら話しあった。中学、高校の英語学習の目標、実践等をそれぞれ出し合い、学習の連続性を考え上手く橋渡しをしていく必要があると実感した。

IV. 東京教師道場の研修を通して

教師道場での研修を通して、助言者・部員の方々からこれまで自分が指導してきた方法をあらゆる面から反省・改善する機会をたくさん頂いた。その際、班テーマである「学年末・卒業時のゴールを設定する」については、達成に向けてより具体的な目標や手立てを考え、理想とする生徒像を掲げ日々の授業で工夫・改善を加えていく必要があることを改めて実感した。また、そのなかでペア活動等を通して生徒同士の学びあいの学習環境を提供していくことが大切だということも学んだ。今後も、目の前にいる生徒が学年末・卒業時に「こうなってほしい」という意識をもって、生徒のために授業の質を充実したものにしていきたいと思う。

英語学習大会への参加を通じて ～発展的な学習への取り組み～

練馬区立練馬中学校 教諭 佐藤 勝也

1. 区英語学習大会参加への経緯

授業で学習したことを生かして、何か発展的な事を行えないか、自分たちにもできると生徒が達成感を得る場面は無いかと、私だけでなく、多くの英語科教員は日々模索していると思う。本校英語科は、毎年行われている区の行事（練馬区立中学校英語学習大会）に、選択授業（英語）を履修する生徒達が参加することで、この「達成感」を得ようと指導を試みた。英語学習や異文化理解に強い興味・関心を持つ生徒が多く集まる選択授業で、発展的な学習をどのように行わせるか。中学生の学習内容として、生徒が既習事項を生かして自発的に行える事には、どのようなものがあるか。生徒の意見も募りながら、最終的に「発表」という形を前提に検討したところ、考えを述べる事に加え、その根拠や資料を同時に示すSpeech & Slide Showという形になった。

2. 発表内容について

発表者も聴衆も「中学生」であることを意識させ、生徒の題材選定は身近なものや中学生の目線、考えによるものとなった。‘Something Strange Around Us’ というテーマが決まると、2つのトピックに絞られた。それらは‘To Go or Not toGo’（「(塾)に行くべきか、行かざるべきか」）と‘Toys and Sweets in Family Restaurants’（「ファミレスのおもちゃやお菓子」）である。タイトルからもわかるように、進行や構成は教科書（東京書籍 New Horizon English Course 2 ;Unit 5 ‘A Park or a Parking Area?’）をモチーフにしている。駅前での事故、市の新しい条例決定の記事、投書欄への意見文と本文内容は続いていく。既に学習した内容を教科書で振り返るため、生徒は自分たちのトピックの進め方にイメージが持ち易く、教員も指導がし易い。

A juku has good points and many of my classmates enjoy going there. And we have to remember that the entrance examination is coming near. I am anxious about it. Is juku needed?

I don't know the answer now. Are you for or against? To go or not to go, that is the question.

教科書を参考にすることで、客観的な事実やデータを用いて相手に考えさせることや、テーマに対する自分の立場や意見の展開例を見取ることができる。別途難解な書籍を活用する必要は無く、教科書が格好の手本となった。

This is question No.1 - Do you go to juku? 75% of the classmates are positive to juku, including those who are planning to in the near future.

This is question No.2 - Who recommended juku to you? Their parents did was 70%. 26% of classmates decided by themselves.

The last one-What type of juku do you go to? is the question.

I think that there are two types. One is for the preparation of the next lesson, we have 26% of classmates here. And the other is for the review of the last lesson, 16% here. To my surprise, we have 58% here in the compound type.

自分の意見を述べるために、客観的な資料やデータを求め、生徒は調査や取材を行った。課題発見から調査学習、発表までの流れは、「総合的な学習の時間」のそれと同じである。

When I looked them carefully, I realized that they are displayed in the in the lower counter. Toys for 2 or 3 year-old children are in the lowest counter, for 5 or 6 year-old children are in the middle, and for older children are in the top. What a wonderful idea !

I asked two more questions to the manager.

Question : What percentage of the toys and sweets among all the sales ?

Answer : It is less than only 1 percent !

Question : Why do you have toys and sweets ?

Answer : We would like to add pleasure beside having delicious food.

We are also happy if the customers are happy.

3. 成果と課題

- ・テーマ設定からグループワーク、最終的には発表を行う活動が可能であることがわかった。教員は生徒の能力や指導時間などを考慮し、教科書の題材や身近な例、生徒の興味関心を把握し、指導する必要がある。興味関心が薄い上に作業が大変と感じると、生徒は諦めてしまい、達成感を得られなくなってしまう。
- ・インタビューや調査学習で知り得た内容を、平易な英語で表すことが難しく、生徒の原稿を英語科やALTで添削した。身近なことを英語で表す機会を増やし、書く力を高める継続的な指導が必要であると感じた。また調査結果や考察といった内容のため、発表は正確に伝えることに重点が置かれてしまい、顔を上げて話すところまで指導が到らなかった。
- ・区英語学習大会では、教科書を利用した発展的な活動であることや、自然な表現や発音、調査や取材等の着眼点を審査の先生方に評価して頂き、本来無かった「特別賞」を頂いた。このことは指導教員並びに発表生徒にとって大きな喜び、自信へとつながった。自校でも文化的行事に於いて、発表の機会を設け、全校生徒の意識を高めていきたい。

総務部報告

(総務部長 飯島 光正)

本年度も各部、地区幹事、部長名簿を作成し、全都の地区部長、地区幹事に配布した。また、年間事業は右記の通りである。

①の定期総会は今年度も多くの参加者を集うねらいで、時間帯を遅らせた。また、講演会は行わなかった。講演会については今後の課題と捉える。

②は昨年までの全中英協に代わるもので、全英連中学部が主催し、その受付業務のお手伝いをした。

③の関プロ千葉大会は11月に千葉市で行われた。昨年同様大会が1日開催となった。今年度は「国際社会を生きる日本人の育成」－基礎・基本の定着から実用使用への発展的指導を通して－主題に開催された。東京からは「発信型コミュニケーション能力を育てる指導」を研究主題に中央区立銀座中学校の鶴田峰子先生より実践に基づいた提案があった。また、本年度から開催県の指導主事先生に指導助言を頂いた。関プロ大会への参加者が今年度も少なく、事務局としても苦慮しているところである。少人数指導導入等に伴い、先生方がなかなか現場を離れられない状況や出張の許可が下りない実態を各地区から頂く。今後、研修や研鑽の大切さを見直し、先生方が積極的に研修会等に出られる環境作りを考えていくことは都中英研本部の責務と捉えている。

平成19年11月16日(金)には神奈川県茅ヶ崎市にて関プロ神奈川大会が開催する予定である。大会案内を各地区で積極的に紹介していただき、一人でも多くの参加者が集まる各地区部長・地区幹事の先生方にご協力を頂きたい。

11月25、26日には、全英連東京大会が昭和女子大学、国立オリンピック記念青少年総合センターで実施され、総務部では受付業務を中心にお手伝いをした。

【年間事業】

- ① 5月 定期総会
 - ・資料作成
 - ・受付業務
- ② 7月 「第1回全英連中学部研究協議会」
 - ・受付業務
- ③ 関プロ東京都事務局
 - ・11月関プロ千葉大会参加事務
(大会案内の発送、大会申し込みの受付等)
- ④ 全英連東京大会
 - ・受付業務

事業部報告(1)

第23回授業力アップ研修会

(事業部長 横山 達也)

「授業力アップ研修会」という名称になって2年目の今年度は、平成18年11月13日(月)に、文京区立第十中学校で開催された。当日は、100名以上の参加者があり、研究授業では生徒が見えない参加者もいるほどの盛況であった。今年度は、「reading comprehensionを意識した教科書の効果的活用法」というテーマで、研究授業と研究協議会が行われた。

1. 研究授業

授業者：小寺 令子教諭

(文京区立第十中学校)

現在進行形の復習・定着と、教科書本文の理解を目標として、1年生の少人数クラスで研究授業が行われた。発展クラスの18名の生徒が、積極的に英語を使おうとする姿勢が印象に残った小寺先生の日頃の指導の積み重ねであろう。

授業は次のような流れであった。

○warm-up

- 1 カードの英文を暗記し、疑問文と応答文のmatchingをする。
- 2 ペアの1人がジェスチャーをして、もう1人が現在進行形の文を言う。

○Pre-reading

- 1 ピクチャーカードを見て、質問やコメントを言う。
- 2 アメリカの学校生活について想像し、

発表する。

○Words

本文を読む上で必要な語彙を、ワークシートを使って導入する。

○While-reading

- 1 本文の概要を予測する。聞かせる前に語を選び、聞いて意味を確認する。
- 2 教科書を開き、scanningする。読んで概要を理解する。
- 3 本文の詳細を理解する。英問英答を行う。

以上のように、タスクの与え方が非常に工夫された授業であった。

2. 研究協議会

研究協議会では、研究授業についての質疑応答が活発に行われた。

今回のテーマが、「リーディング」なので、授業者の小寺先生から、タスクを作成するときの基本的な考え方について、話していただいた。

○Pre-reading

想像させるタスクとして、単語を調べて内容を考えさせたり、質問したりする。

○While-reading

どうやって読ませるタスクにするかを考える。最後は英問英答にもっていく。

○Post-reading

一番好きな文に線を引かせる。書かれていないことを想像させるなどの活動。

事業部報告(2)

第59回東京都中学校英語学芸大会

(事業部長 横山 達也)

平成18年12月3日(日)、宝仙学園中学高等学校 Hosen Hall において、第59回東京都中学校英語学芸大会が開催された。今年度の参加校は、スピーキングの部8校、プレイの部11校の計19校であった。

スピーキングの部では、家族、将来の夢、環境問題、日本と外国の比較などさまざまな内容の発表が行われた。どの発表もメッセージが聞き手にしっかりと伝わってきた。参加者のレベルが高く、すばらしい発表ばかりだった。

プレイの部では、「ベニスの商人」「白雪姫と七人の小人」「夕鶴」などの名作や、顧問の先生による書き下ろしの作品などバラエティに富んだ英語劇が上演された。衣装や道具なども工夫されていたが、中学生が登場人物になりきり、英語を使って感情を表現しようとする姿が、何よりも観客を引きつけていたのではないだろうか。どの学校も、時間をかけて練習し、大会に臨んだことがわかる作品であった。

今年度も、宝仙学園の方々には大変お世話になった。舞台打ち合わせの日に、いろいろな学校からの質問に丁寧に答えてくださったり、当日、道具の搬出入や照明・音響をずっと手伝ってくださった。あらためて感謝の意を表したい。

大会記録 12月3日(日)

会場 宝仙学園中学高等学校

スピーキングの部 (参加8校)

1位 Environmental Protection

百木田雄亮

(荒川区立南千住第二中学校)

2位 I'm a Korean Living in Japan

林 政寿

(大田区立大森第七中学校)

プレイの部 (参加11校)

1位 Taro Urashima and

the Sea Princess

練馬区立豊玉中学校

2位 Susanoo

足立区立蒲原中学校

3位 Snow White and

the Seven Dwarfs

江東区立深川第三中学校

特別賞 The Phantom of the Opera

品川区立東海中学校

審査員 田谷 至克先生

(東京都教職員研修センター)

Mr. Edward Weinzeirl (ALT)

児玉 淳先生 (英語検定協会)

今年度も、多くの方々のご協力により、英語学芸大会を無事終了することができた。進行も大変スムーズで、予定通りに終了することができた。お手伝いいただいた宝仙学園の先生方や、中英研各部の先生方へ、お礼を申し上げたい。

調査部報告

コミュニケーションテストの意義

(調査部長 廣田 幸男)

◇平成18年度実施状況

平成18年で中英研コミュニケーションテストが多くの先生方のご支援とご協力を得て実施することができたことに感謝申し上げます。その実施状況は以下の通りである。

2年 4,957人 (51校)

3年 4,714人 (46校)

総計 9,671人

延べ学校数 97校

学校数 61校

昨年度と比較すると学校数は11校減ってしまいましたが、生徒数は238人増加した。また、京都から1校、本テストに参加をしていただいた。しかし、目標としていた10,000人を超える参加者数を確保することはできなかった。その原因としては、全国的に少子化が進んでいることや授業時間の確保等で一斉実施が難しいことが考えられるが、本テストのPRがまだ不足していることも大きな原因であると反省している。平成19年度は受験生徒数が10,000人を超えるように、問題づくりとPRに取り組んでいきたい。

◇コミュニケーションテストの特徴

①2・3年の9月までの履修範囲で、5領

域別に到達度を測り、東京都全域で実施し、参加校の平均点を示すことができる。

②「テスト問題は授業の裏返し」、「評価は授業の道しるべ」と考え、コミュニケーションタイプな授業の内容を生かし、実際の言語の使用場面での運用力を測る。

③実際の生活場面を考慮し、そこで使われている言語をできるだけ多く扱い、自然で適切であることを心がけ、コミュニケーション能力を測る工夫をしている。

④5領域別に、何を測るかというねらいを明確にして問題を作成するので、観点別評価をつける時に評価材料となる。

Listening, Reading → [理解の能力]

Writing → [表現の能力]

Grammar, Vocabulary →

[言語についての知識・理解]

⑤結果は個人成績表で返還される。個人票には、5領域別に各自の得点と自校の平均点が棒グラフで表示されているので、生徒には自分の反省点が明確になる。また、教師には指導の改善に役に立つはずである。

⑥教育測定研究所の精度の高い分析(項目の基本統計量や因子分析)により、常に問題の妥当性や質をチェックし、良問であることを心がけている。

◇問題作成への基本的な考え方(概要)

中英研コミュニケーションテストは、コミュニケーション能力を測るためのテストとして質の高いことを自負している。

調査部では「コミュニケーション能力を測る」ということを「言語の形式的な正確さより、実際に伝達できたかどうかの効果

を測る」と、捉えている。そのため、問題作成に当たっては、次のことに留意している。

- ①生徒が実際の生活で出会う事柄にできるだけ近い話題を組み入れる。
- ②実際に使われている言語をより多く取り扱う。
- ③音声面を多く取り入れる。
- ④場面・状況を重視する。
- ⑤英語以外の要素で生徒に負担をかけないように答えやすくする。
- ⑥何を測定したいのかを、はっきりとさせる。

◇活動報告

- ◇5月18日 総会で活動報告・計画
- ◇6月15日 役割分担、作成マニュアルの検討
- ◇6月27日 テストデザインの検討
- ◇7月21日 スペック、原案検討
- ◇7月27日 各学年問題検討
- ◇7月28日 各学年問題検討
- ◇7月31日 各学年問題検討
- ◇8月4日 各学年問題検討
- ◇8月7日 各学年問題最終検討
- ◇8月17日 全問題最終検討
- ◇8月28日 中英研役員会問題検討
- ◇8月30日 録音作業、CD作成
- ◇9月5日 問題完成
- ◇10月初旬 参加校へ問題一式発送
- ◇10月～11月～12月 各校で
テストの実施→答案送付→採点→答案返送→代金振込→テスト結果の送付
- ◇1月中旬～下旬
報告書作成、印刷発注

- ◇2月下旬 報告書完成、発送
- ◇3月上旬 今年度の反省、次年度の計画作成

◇10年間の実践研究のまとめ

今年度は通常のコミュニケーションテスト作成の他に、根岸雅史先生（東京外国語大学教授）の指導を受け、本テストの10年間の実践研究をまとめる活動も行った。「授業がコミュニカティブになったら、テストもコミュニカティブに！」では、どのようにしたらテストがコミュニカティブになるのか？10年間の実践研究を紹介しながら、リスニング、リーディング、ラフティング、文法・語彙のテストについての実践研究から良問を精選し紹介することにした。この春に、『コミュニカティブテストイングへの挑戦－A Practical Guide to Communicative Testing』というタイトルで三省堂から出版される予定である。

◇テスト参加へのお願い

ぜひ、19年度テストへの参加を重ねてお願いすると同時に、年度当初にテスト参加費として、生徒1人280円（個人情報保護のためのマークシート作成・処理等の経費がかかるため、例年の値段より30円値上げを予定している）の予算の計上をお願いします。

◇最後に

本年度もご多忙中、ご指導くださった東京外国語大学教授根岸雅史先生と熱のこもった検討を重ねた調査部員に心より感謝申し上げます。

研究部報告

(研究部長 北原 延晃)

1. 夏の語い指導ワークショップ

第5回を迎えた語い指導ワークショップは8月2日日野学園、3日狛江一中、22日第二南砂中にて行われ、のべ91名(過去最高)の参加者があった。今年の特徴は若い先生方の参加が非常に多く、近年の教員採用数の増大を反映したものであったことだ。若手教員の育成を図っていくことの重要性をひしひしと感じた3日間であった。

2. 研究の概要

平成13年度から4年連続して「語い指導」のあり方について研究を行ってきた。そしてその集大成として昨年度は「都中英研研究部推奨発表語いリスト(written)635語」を選定した。この635語は日本人の中学生が「聞いてわかり」「読んで意味がわかり」「発音でき」「つづりまで書ける」ようにさせたい語いである。

今年度の研究は次の通りである。

1. 研究の流れ

- (1) 6社の教科書の電子データの中から次のものを残して後は削除した。

- ①本文
- ②本課と本課の間にあるLet's Talkのような本課に準じるページの文
- ③まとめや練習の中の文

- (2) 調査する重要動詞を選定した。

選定基準は次の3つの条件をすべて満たしていることである。

- ①平成14年度版教科書7社すべてに出現する語
- ②青山学院語彙リスト(AGL)でレベルが7の語
- ③平成17年度選定中英研研究部推奨発表語い(written)635語

具体的には以下の語になる。

ask become beging bring come cry
cut do drink eat enjoy find get give
go have hear help hope know leave
live look love make meet need open
play rain remember say see send
show sit speak start stay stop study
take talk teach tell think try turn
use visit wait walk want work worry
write

- (3) コーパスソフト Ant Conc を使って教科書ごとにコロケーションを調べ、ヒットした語句をエクセルに入力していった。

2. 「検定教科書にあらわれる重要動詞のコロケーション調査(中間報告)」

本年度調査したのは4社の教科書に現れる一部の重要動詞(ask, bcome, beging, bring, come, cry, cut, do)のコロケーションである。

動詞の次に来る語句をカテゴリーごとに記した。これらは可能な限りそのままの語句を収録するようにした。

3. おわりに

語いの指導は単語だけではなくコロケーションと共に指導する方がずっと記憶に残る。研究部のホームページからダウンロードして日々の授業で活用していただきたい。

<http://www.eigo.org/kenkyu>

出版部報告

(出版部長 井田 宗宏)

今年度、出版部では、主に「都中英研だより」、「都中英研会報」等の機関誌の発行を中心に活動を進めてきた。これまで発行してきた「全中英協だより」は、全英連、中学校部会に任されることになった。これらの機関誌は都中英研の活動内容を都内各中学校の英語科教員に知っていただくともに、情報交換の場とし、英語教員相互の連携を深め、都の中学校英語教育の一層の充実、発展のために役立たせることを目的としている。

配布先は都内の全中学校、教育関係諸機関等である。発行部数はそれぞれ2000部程になる。なお、部会は隔月に一回の割合で開き、係分担、編集、発送事務等をした。同時に出版部員の授業研究を深める場としても活用している。以下、機関誌の内容である。

・「都中英研だより」第51号発行（7月）

都中英研会長挨拶、中英研総会、講演内容報告、英語指導実践例、役員名簿、年間行事、中英研コミュニケーションテスト紹介等を掲載した。

・「都中英研だより」第52号発行（11月）

サマーワークショップ、都中英研授業研究会、英語科教員の研修について、東京教師道場、英語教員集中研修等について掲載した。

・「都中英研会報」第65号の発行（3月）

都中英研の年間の活動報告や英語教育活動全般のまとめとして発行した。内容は主に、英語教育関係所感、英語学芸会報告、都研修センター報告、各区活動状況、全英連報告、中英研事業報告、各部活動報告等である。

*この他、「総会」「英語学芸会」「研究部発表会」等の手伝い、記録等の協力をしてきた。

「全英連」は平成16年度から「中学校部会」「高校部会」という形を基本とする組織形態に改善され、それぞれの校種に応じた活動を保障するとともに、中学校と高等学校が実質的な意味で連携できるようにし、その活動が、定着しつつある。

これまで「全中英協」で積み上げてきた全国規模での活動実績やその機能を「全英連中学校部会」へ継承することにより、公立中学校英語の充実・発展を図ることとしたのである。出版部でも、この流れをくみながら、新たな活動に、意欲的に取り組むようにしてきた。

今年度を振り返ると、出版部では、広報や出版の活動を主としながらも、部員個々の研修を深めるために、定期考査問題も持ち寄り、情報交換を行うとともに、より良い問題作りに向けて意見交換を行った。また、実際の授業の様子をビデオに撮り、効果的な授業の展開方法について、研鑽を重ねてきた。

次年度に向けて、さらに充実した活動ができるよう、改善を図っていきたい。

年間活動報告

- 4月・組織編成
- 5月・「中英研総会」記録
(5月18日、場所：神楽坂エミール)
懇親会参加
 - ・第1回出版部会「年間活動計画(案)」
検討(5月29日、文京区立第十中学校)
- 6月・「都中英研だより」第51号作成編集、
印刷発注、校正
 - ・第2回出版部会「都中英研だより」
第51号発送
(6月26日、文京区立第十中学校)
- 7月・全英連中学部会参加
(7月27日、場所：神楽坂エミール)
講演「中学校英語教育における現在の
課題とこれから」
文科省 平田 和人先生
- 11月・「都中英研だより」第52号作成始、
編集、印刷発注、校正
 - ・第3回出版部会「都中英研だより」
第52号発送
(11月9日、文京区立第十中学校)
 - ・「中英研会報」第65号原稿依頼
- 12月・「英語学芸会」協力
- 2月・「中英研研究部発表会」協力
 - ・「中英研会報」第65号作成編集、印
刷発注、校正
 - ・第4回出版部会「中英研会報」
第65号発送
(2月26日、文京区立第十中学校)
 - ・今年度の反省、来年度へ向けての意
見交換等

今年度、役割分担を以下の通り行い活動を進めてきた。

- ・第51号「都中英研だより」
平林 澄子(練馬区立中村中学校)
今本由美子(練馬区立大泉中学校)
三岡 一隆(練馬区立石神井西中学校)
赤塚 貴音(練馬区立大泉第二中学校)
岡部 芳枝(文京区立文林中学校)
岡田 美保(江戸川区立瑞江中学校)
- ・第52号「都中英研だより」
小柳 守生(文京区立第十中学校)
渡辺 雅子(足立区立六月中学校)
中井 正弘(東久留米市立中央中学校)
下路 博朗(足立区立第四中学校)
田中 典子(足立区立江北中学校)
鈴木 咲子(東久留米市立大門中学校)

第46回 十四大都市公立中学校 英語教育研究会連絡協議会

大阪大会報告

開催日：平成18年10月13日

於：大阪府教育会館

今回の大会は、「英語教育における学力」を研究主題とし、オブザーバーの堺市を含め15都市が参加（1市紙上参加）の大会となった。

1 情報交換

まず、各都市の研究会概要が発表された。それぞれ英語教育の目標達成を目指した様々な工夫を凝らしている姿が紹介された。さいたま市では、NETに免許を与え、主となって授業ができるようにしたこと、神戸市からは退職者の技術、ノウハウを伝える授業実践研究の実施、広島市からは評価基準（規準）市内統一の取り組みなどが情報提供された。しかし、どの団体も予算や出張関係などで研究しにくい実態を抱えていることが悩みとして出された。

2 アンケート協議

生徒の学習意欲を高める工夫では、ALTの増員や長期休業中の宿題で、教師に英語のメールかはがきを出し、教師は必ず返事を書く取り組みなどが紹介された。学力向上の取り組みではさいたま市から有用な表現や使用頻度の高い単語のインプット活動が提案された。また、各都市の自主教材の紹介もされた。

英語教育における小中連携では、小学校の英語教育研究会に中学の教員が講師として助言（札幌市）、中学校英語教員による小学校英語活動の参観推進（千葉市）、英語科教員の小学校での授業実践（川崎市、

福岡市）小学校英語活動実践事例集作成（神戸市）などがあった。今後の小中連携はどうあるべきかでは、小学校への英語担当教員やALTなどの人的条件整備、カリキュラムの共同作成、小中人事交流推進、小中連携の授業参観や研修会の実施が必要であると出された。実践的コミュニケーション能力の育成のための効果的な取り組みとして、自己紹介スピーチの実践、リスニングテストの工夫、コミュニケーション活動の実践、1分間スピーチ、生徒同士などのE-mail、はがき交換、コミュニケーションテストの実施、ALTの活用、英語による授業などの実践が提案された。

3 実践発表

「おおさかわっしょい！」地域密着の内容を盛り込んだcommunicative activityを深めるための独自教材で、jigsaw methodを使った実践報告があった。

4 講演「今、求められている英語の学力」

関西大学大学院教授 齋藤栄二先生

戦後60年の学力問題の歴史を振り返りながら、今必要な中学校英語教育は何かご指導いただいた。激動の時代ゆえ、教育者は長期的な見地で教育を見ることが大切である。中学校の英語教育は英語で簡単な意思疎通ができ、世界が庶民の交流を深め、寛容な態度で共生できるレベルものを目指せばよいと考える。先駆者の研究財産をもとに、指導力の工夫を積み重ねる教員の育成を目指して欲しいと激励いただいた。

（足立区立花畑北中学校 田幸 徹）

第56回 全英連総会 全国英語教育研究大会

(東京大会)

1. はじめに

平成18年11月25日(土)・11月26日(日)の2日間、東京において第56回全英連総会及び全国英語教育研究大会が、「Global Citizenship を視野においた英語教育を目差して」を大会コンセプトとして開催された。千六百名近くの参加者を得て熱気溢れる盛大な大会となった。以下その概要について報告する。

2. 第56回全英連総会・記念講演

- (1) 期日：平成18年11月25日
- (2) 場所：昭和女子大人見記念講堂
- (3) 内容：挨拶・祝辞・会務報告等があり、滞りなく終了した。総会后、記念講演が行われた。

講師：Richard Cauldwell氏

(Owner of Speechinaction)

演題：“Pronunciation for Speaking and Listening: Making the most of your textbook”

録音素材を使用し、実際の発話の特徴を示しながら、教科書教材での発音指導の手法を示してくれた内容の濃い講演であった。

3. 授業発表

(1) 高等学校授業実演・協議

実演者：広瀬克巳教諭 (都立国際高)

助言者：根岸雅史教授 (東京外語大)

(2) 中学校授業 (ビデオ) 発表・協議

発表者：本多敏幸教諭

(江東区立深川第八中学校)

助言者：高橋一幸助教授 (神奈川大)

ビデオの特徴を生かし、授業指導の成果を検証できる発表となった。

4. 分科会

(1) 期日：平成18年11月26日 (日)

(2) 場所：国立オリンピック記念
青少年総合センター

(3) 内容：

①小学校の部：2分科会

②中学校の部：7分科会

・Speaking, Reading, Listening,
Writingの指導と評価

・指導と評価の現状と課題

・効果的な選択授業

・基礎学力をつける指導と評価

③高等学校の部：7分科会

④共通：4分科会

・中学校における語彙指導

・中高一貫校における英語指導等

⑤ワークショップ：7分科会

5. 全英連の課題について

今回の東京大会は7年後である。本大会では中英研から多くの手伝いスタッフが運営に携わったが、今回の東京大会では中心メンバーとして活躍することを期待したい。

中学校英語の全国組織は、今年度より全英連中学部として一本化し、活動を開始している。今後、全国の中学校の英語団体をどのようにまとめ、ニーズに応じていくかが大きな課題である。組織充実のため各先生の積極的な協力をお願いしたい。

(全英連副会長 坂下孝憲)

第30回 関東甲信地区中学校
英語教育研究協議会 千葉大会

研究主題

「国際社会を生きる日本人の育成」

～基礎・基本の定着から実際使用
への発展的指導を通して～

期日：平成18年11月10日

会場：千葉市民会館他

千葉大会は千葉市民会館大ホールで全体会が行われた後、5つの分科会に分かれ千葉市民会館、千葉教育会館の各会場で開催された。東京は第2分科会の担当となり「発信型コミュニケーション能力を育てる指導」をテーマに中央区立銀座中学校の鶴田峰子教諭が発表を行った。以下、全体会と第2分科会の概要を報告する。

1 主題に迫る研究の手だて

(1) 実践的コミュニケーション能力を語彙や文法事項を正しく理解し運用できる能力と創造的な言語使用ができる能力と捉えた。そのためには、基礎・基本の定着から発展までの指導過程を工夫することが必要である。

(2) 「目標に準拠した評価の重視」「指導と評価の一体化」が課題となっている。このため、評価規準の設定や基準に照らした評価を行うことが重要であり、評価規準の設定→評価規準「おおむね満足できる」の設定→この規準に達しなかった生徒への支援という、一連の活動が必要である。

(3) 発信者のメッセージを正しく受け止め、それに対する自らの考えを適切かつ効果的に伝えていく態度・能力を育てていく必要がある。

2 記念講演

講師：文部科学省初等中等教育局視学官

平田 和人先生

演題：中学校英語教育の現状と課題

(1) はじめに

○中央教育審議会の動向

・学習指導要領の改訂に向けて教育課程部
会、外国語専門部会

・各学校段階における英語教育

○コミュニケーション能力の育成

・実践的コミュニケーション能力
・指導と評価の一体化

(2) 英語教育の現状・課題

○教育課程実施状況調査等の結果

・生徒は何ができて何ができていないのか

(3) 英語における基礎・基本の徹底

○教育課程の視点

・学習指導要領の意義
・言語活動と言語材料

○四つの必須事項

・「知識を与えること」「練習をさせること」
「使用させること」「興味をいだかせること」

○四つの評価の観点

・「コミュニケーションへの関心・意欲・
態度」「表現能力」「理解の能力」「言
語や文化についての知識・理解」

(4) 目標に準拠した評価

○目標の達成を見る視点からtraceableか

○目標→評価規準→評価方法→情報収集→
解釈・判断→総括

○指導と評価の一体化

○個に応じるための工夫

・指導、携帯、教材など

3 各分科会の研究主題

第1分科会「四領域を有機的に関連づけた指導」

第2分科会「発信型コミュニケーション能力を育てる指導」

第3分科会「指導法の改善や学習意欲の向上につながる評価」

第4分科会「異文化理解を深め国際性を養う指導」

特別分科会「小・中・高が連携した英語教育」

4 第2分科会提案概要

東京からは鶴田峰子教諭が「入門期の段階的な指導を通して、英語の表現能力を高める指導法の工夫」との副題のもとに次のように発表した。

(1) 主題設定の理由

英語学習で一番やってみたいこととして「外国の人と英語で話す」ことを第一にあげる生徒が多い。このことを叶えるために、英語の音声指導を中心とした授業を行い、表現力を高めるための指導を行うこととした。

(2) 指導内容と方法

ア 外来語を既習語として活用する。

1年生の最初の授業でカテゴリ別のワークシートに記入させ、英語の音とつづりの関係を指導する。

イ 自己紹介で表現できる文を増やす

①自己紹介Ⅰ：is, am, areの導入

名前、出身地、年齢、職業の紹介

②自己紹介Ⅱ：like, have, playの導入

好きなこと、持ち物、趣味

ウ スピーチへの取り組み

①スピーチ原稿作成－1年1学期

指導例：フォーマットを示す

・Hello. My name is _____.

・I am _____ 年齢 _____.

・I am from _____ 地名 _____.

・I like _____ 食べ物、色、他 _____.

・I have _____ 上記と関連したこと _____.

・I play _____ 上記と関連したことwith人 _____.

②スピーチ発表指導－1年2学期

実施上の留意点：

・原稿は暗記を理想とするが暗記できない場合はRead and Look-upとする。

・Judge sheetを全員に配り全員がクラスメートのスピーチを審査する。

・録画して後日の指導に生かす。

・ビデオに録画すると生徒はマイクとカメラを意識し話すことに集中する。

・生徒に録画中のカメラの映像を見せることによりカメラの写り具合を意識しながら話す。

エ 学校行事と関連づけた指導

①姉妹都市との交流

オーストラリアから毎年5～6人の生徒が本校に来るので、この機会を利用し学校案内や日本文化の紹介等を行う。

②ALTによるインタビュー・テスト

中央区統一のSpeaking Testを用いて毎年2学期に実施している。主な内容は：

・生徒には事前に質問内容、形式の概要を知らせておく。

・生徒からALTへの質問も促す。

・評価はSpeaking Test評価カードで理解度、表現力など10項目で評価する。

(3) 考察

入門期から多用な活動で音声指導を重視し反復練習を取り入れた。段階を追っていいいに指導することを心がけた。

(文京区立第十中学校長 中村 馨)

各地区の活動状況

千代田区	34右
中央区	35左
港区	35右
新宿区	36左
文京区	36右
台東区	37左
墨田区	37右
江東区	38左
品川区	38右
目黒区	39左
大田区	39右
世田谷区	40左
渋谷区	40右
中野区	41左
杉並区	41右
豊島区	42左
北区	42右
荒川区	43左
板橋区	43右
練馬区	44左
足立区	44右
葛飾区	45左
江戸川区	45右
八王子市	46左
西多摩地区	46右
町田市	47左
日野市	47右
青梅市	48左
多摩市	48右
稲城市	49左
大島	49右

千代田区

I. 研究主題

「意欲を育てる授業の工夫」

1. 習熟度別少人数授業を生かした教材
・教具の開発と研究
2. 連合文化祭への行事参加

II. 活動の経過

- ◇4月12日 教育会一斉部会
組織編成、研究課題決定
- ◇6月20日 研究授業
神田一橋中学校
- ◇7月5日 部会
情報交換、1学期授業・研究報告
- ◇8月 都英語科教員集中研修
- ◇9月13日 部会
夏季研修報告
- ◇11月2日 区連合文化祭
英語劇 “Tie A Yellow Ribbon Around
The Tree”
九段中等教育学校
- ◇12月6日 部会
情報交換、2学期授業、研究報告
- ◇2月7日 ペスタロッツ祭
区一斉部会、研究のまとめ
(神田一橋中学校 鷺坂有希子 記)

中 央 区

I. 研究主題

「表現力を高めるための指導法の工夫」

II. 活動の経過

- ◇4月11日 中央区教育会一斉部会
 - ・組織作り、研究主題、年間活動計画作成、ALT紹介、情報交換
- ◇4月 第1回ALT派遣運営委員会
- ◇5月～7月 海外派遣生へ英語指導
- ◇5月 中央区統一年間指導計画作成
- ◇5月24日 第1回JET & ALT Meeting
 - ・中央統一Speaking Testの内容検討
 - ・第1回Team Teaching実技研修会
担当：(晴海中) Brett、長谷川
- ◇6月14日 第2回JTE & ALT Meeting
- ◇7月14日 ALT派遣運営委員会
- ◇9月27日 第3回JET & ALT Meeting
 - ・Speaking Testの日程、Interviewの形式、評価カードの検討
 - ・第2回Team Teaching実技研修会
担当：(銀座中) Richard、鶴田
- ◇10月4日 研究授業(晴海中)
授業者：長谷川千秋、Mr. Brett Davis
- ◇10月23日～11月30日
 - ・中央区統一Speaking Test実施
ALTが2名1組で中央区立中学校の全生徒を対象にInterview形式でSpeaking Testを行う。
- ◇12月 中央区統一Speaking Testについて区内全生徒対象アンケート実施
- ◇1月 研究集録まとめ
- ◇1月24日 中央区教育会発表会
 - ・Speaking Testの成果について報告
担当：並木(銀座中) ALT, JTE
(銀座中学校 鶴田峰子 記)

港 区

I. 研究主題

「NTと教科書を活用した授業の工夫」

II. 活動の経過

- ◇6月14日 区教研 一斉部会
研究主題、活動計画、組織作り、NT活用、評価資料
- ◇9月13日 一斉部会
場所 港陽中学校
 - ・平成18年度英語発表会実施要項の検討
 - ・NTの活用
 - ・評価資料作成
- ◇11月8日 英語発表会
会場 麻布区民センター
 - ・レシテーション 1校2名
 - ・スピーチ 7校12名
 - ・劇 1校東京都中学校英語学芸会予選をかねる。
- ◇11月14日 研究授業
場所・対象：高松中学校・1年
授業者：邑松雅仁先生
講師：港区立港陽中学校校長
佐藤 榮一、英語部部員
- ◇1月17日 一斉部会
 - テーマ1：今年度のまとめ
 - テーマ2：英語発表会のまとめ
 - テーマ3：教育特区による英語授業（3プラス1）の指導の内容と課題
 - テーマ4：評価資料
(港陽中学校長 佐藤榮一 記)

新 宿 区

I. 平成18年度研究主題

- ① 観点別学習状況による指導と評価について
- ② 評価から評定へのきめ細かな手順について

II. 活動の経過

◇ 6月27日 授業研究 (牛込三中)

授業者：平野絢子教諭

講 師：新宿区教育委員会

木内苗津子指導主事

◇ 7月26日 新中教研教科部会

(牛込第三中)

テーマ：「指導と評価

ーテスト問題検討ー

での観点別評価の具体例」

◇ 8月23日 英語学芸発表会

場 所：四谷庁舎区民ホール

◇ 10月18日 一斉部会

(落合二中)

授業者：矢澤昭治教諭

講 師：牛込第三中学校長

竹田秋人先生

ワークショップ

「定期考査作成における観点別の問題作成等の具体例」

◇ 1月26日 授業研究 (西新宿中)

授業者：佐藤美帆教諭 (予定)

(牛込第一中学校 與那城健有 記)

文 京 区

I. 平成18年度研究主題

「実践的コミュニケーション能力を育てる指導の工夫」

II. 活動の経過

◇ 4月24日 一斉部会

① 平成17年度の事業報告、会計報告

② 平成18年度の役員選出、年間事業計画の決定 (研究主題、日程、研究授業校、全国大会参加者、等)

◇ 6月27日 教科書研究

会 場：文京区立第一中学校

講 師：東京学芸大学附属世田谷中学校

教諭 日臺滋之先生

内 容：New Crownの効果的な使い方

◇ 10月10日 研究授業

会 場：文京区立文林中学校

授業者：柳 歆子主幹・ALT

内 容：3年・スピーチ (My Dream)

◇ 11月10日 間プロ・千葉大会

参加者：第十中学校 中村 馨

内 容：第2分科会・発信型コミュニケーション能力を育てる指導

◇ 11月25・26日 全英連東京大会

会 場：昭和女子大学、代々木オリンピックセンター

参加者：文京区から5名、他に運営の係として2名

◇ 1月19日 一斉部会

① 会 場：文京区立第一中学校

② 講 師：Mr. Brian McDonough

③ 内 容：ワークショップ「スピーチ」

(第十中校長 中村 馨 記)

台東区

I. 研究主題

「基礎・基本の定着を目指して」
—様々な授業形態における指導の工夫・改善—

II. 活動の経過

- ◇4月12日 第1回部会
組織編成、研究課題決定（御徒町台東中）
- ◇5月11日 第2回部会
英語学会会検討（忍岡中）
- ◇6月13日 第3回部会
授業研究協議会（忍岡中）
講師：根岸雅史（東京外国語大学教授）
- ◇9月28日 第4回部会
英語学会会検討（忍岡中）
- ◇10月11日
教育研究会一斉部会
研究授業（上野中）
・授業者：井上里佳
- ◇11月11日 英語学会
（ミレニアムホール）
スピーチ6校、スキット1校、ドラマ
1校 計40余名参加
- ◇11月15日 五英研部会
（第五学区英語教育中高連絡研究協議会）
研究授業（浅草中）
・授業者：川中子登志雄
・講師：後関正明
（ILEC言語教育研究所常任理事）
- ◇2月7日 教育研究会発表会
研究のまとめ（柏葉中）
（柏葉中学校長 杉山佳男 記）

墨田区

I. 研究主題

「実践的コミュニケーション能力の育成と
指導と評価の一体化」

II. 活動の経過

- ◇4月12日 区教研一斉部会
組織作り、研究主題、活動計画、ALT
との情報交換
- ◇6月28日 研究授業
場所・対象：墨田中学校・2年生
授業者：今村仁美教諭
講師：三鷹市立三鷹第三中学校
校長 安原美代先生
内 容：コミュニケーション能力をどの
ように育てていくか、ワークシ
ョップ形式で学ぶことができた。
- ◇8月25日 サマーワークショップ
場 所：墨田区立墨田中学校 会議室
講 師：墨田区立墨田中学校
副校長 石川賢司先生
アイエック アローンリタプー
内 容：実践的な授業形態と指導方法
参 加：15名（ALTを含む）
- ◇11月17日 区連合学会
スピーチ・レシテーション
墨田中学校 生徒2名参加
- ◇11月29日 研究授業
場所・対象：錦糸中学校・2年生
授業者：間宮康二教諭
講 師：駒澤女子大学
助教授 太田 洋先生
内 容：リーディング指導にペアワークを
取り入れ、授業を構築していく
指導方法を学んだ。
（墨田中学校長 小倉 勉 記）

江 東 区

I. 研究主題

1. 基礎学力の充実を目指した指導と評価の工夫
2. 実践的なコミュニケーション能力育成を目指した指導と評価の工夫

II. 活動の経過

- ◇5月9日 区中研総会・英語部会
組織・研究主題と年間計画決定
- ◇6月23日 研究授業(TT)
第四砂町中、御田 香教諭
BC ALT Nicholas Carter
講師：文京十中 小寺令子先生
- ◇7月25～28日 ワークショップ
British Council・区教委・英語部の共同事業として、教授法や英語力向上の研修会を実施。
- ◇10月7日 研究授業
深川第七中、佐々木孝紀教諭
講師：学大竹早中 金枝岳晴先生
- ◇11月10日 連合英語学芸会
江東文化センターで、スピーチ24名、暗唱7名、英語劇4校が発表し、区代表は深川第三中の“Snow White”が選ばれ、都大会で第3位に輝いた。
講師：恵泉女子大 須田昌義氏
BC：Mr. Fergus Mackinnon
- ◇11月15日 区中研：秋の研究集会
英語部発表 東陽中 杉本 薫教諭
- ◇2月14日 区中研：一斉部会
深川第八中、本多敏幸教諭による大学院研究報告と今年度のまとめ。
(第二大島中校長 山本展子 記)

品 川 区

I. 研究主題

1. 絶対評価について～評価規準の設定とテスト・評価～
2. 5・6年生から7年生へのスムーズな移行に向けて～小中一貫教育を踏まえた中学校英語のあり方～

II. 活動の経過

- ◇4月26日 総会にて組織の決定
- ◇5月24日 研究テーマ・内容の決定
- ◇6月7日 第1回小中合同研究授業
平塚中学校7年生：白水美緒先生
講師：荒木秀二教授(東洋学園大)
- ◇7月5日 「絶対評価について」
講師：長 勝彦先生(武蔵野大学)
- ◇8月 小中一貫部門アンケート集計
- ◇8月7日 小中一貫教育における英語科の改善
講師：長 勝彦先生(武蔵野大学)
山本崇雄先生(両国中学校)
- ◇8月8日 演習「コミュニケーション能力を身に付ける授業の工夫」
- ◇9月6日 第2回小中合同授業
①原小学校1年生：沖山直光先生
②伊藤中学校7年生：山崎由美恵先生
ともにALT：Mr. Mathew Philips
講師：東 仁美先生(聖学院大学)
- ◇11月6日 学習成果発表会
- ◇12月 小中一貫部門アンケート集計
- ◇1月 第3回小中合同研究授業
品川小学校1年生：菅生真貴子先生
5年生：蜂須賀美菜先生
- ◇2月7日 品川区立教育会研究発表
FULL SWING(英語部 News) 定期発行
(城南中学校 黒田由紀恵 記)

目 黒 区

I. 研究主題

「確かな学力を身に付けさせる指導の工夫」

II. 活動の経過

◇4月12日 第1回部会

研究主題と年間活動計画の決定及び組織づくり

◇5月26日 第2回部会

A L TとのT Tによる授業研究と研究協議（東山中）

授業者：村上明美教諭

講 師：ロン・マーティン先生
（早稲田大学）

◇7月12日 第3回部会

授業公開（少人数指導）と研究協議
（七中）

授業者：舘野久美子・竹内由紀教諭

講 師：谷口幸夫先生（都立戸山高）

◇10月11日 第4回部会

A L TとのT Tによる授業研究と研究協議（目黒中央中）

授業者：佐野文仁教諭

◇11月7日 スピーキングコンテスト

（めぐろパーシモンホール）

◇11月29日 第5回部会

研修主題に関する研修として各校の指導資料交換と協議

◇12月3日 都中学校英語学芸大会

Speakingの部において“Talking with Grandfather”（一中）の発表

◇2月7日 区教育研究発表分科会

今年度の研究のまとめの発表

研究主題に関する研修

（第一中学校長 増淵裕康 記）

大 田 区

I. 研究主題

「実践的コミュニケーション能力の向上を目指した指導法・評価の研究」

II. 活動の経過

◇4月13日 区教研一斉部会

・研究主題、活動計画、組織作り
・講演会・研究協議会

「英語教育の動向と新教科書の活用の仕方」

講 師：東京書籍編集部長

◇4月 部員名簿作成、各校配布

◇10月11日 小中連携授業研究

・授業者：水谷紀彦教諭、
山本恵美子校長（道塚小）
・協議会「英語教育における小中の連携の在り方」

◇11月10日 英語学会

・Play 3校、Speech 21名参加

◇11月25・26日

全英連東京大会への参加

◇12月3日 都英語学会

大田区代表 スピーチ部門第2位

◇12月26日 ワークショップ

「授業の導入」の実演・発表

ビデオによる授業研究

講師：本多敏幸教諭

（江東区立深川八中）

◇2月9日 授業研究

授業者：片倉佑佳教諭（羽田中）

◇2月14日 区教研一斉部会

・1年間のまとめ ・講演会

講師：杉浦正好愛知教育大教授

◇研究紀要作成

（馬込中学校長 坂下孝憲 記）

世 田 谷 区

I. 研究主題

1. 実践的コミュニケーション能力を育む英語指導と評価の工夫
2. 個に応じた指導の工夫と改善
－TT、少人数、習熟度別学習、選択学習等において－

II. 活動の経過

- ◇5月17日 前期一斉教育研究会
組織編成、研究主題決定、役員会
- ◇6月7日 区教科研究集会
授業研究 第2回役員会
- ◇7月11日 第3回役員会
- ◇8月22日 夏季研修会
授業研究会、第4回役員会
- ◇9月7日 スピーチコンテスト打ち合わせ
- ◇10月7日 スピーチコンテスト予選会
- ◇11月8日 後期教育研究会
スピーチコンテスト本選
- ◇12月6日 スピーチコンテスト反省会
- ◇1月26日 国立・私立・公立交流会

〈研究授業〉

- 1学期 1ブロック研究授業
 - 2学期 2・3ブロック研究授業
 - 3学期 4ブロック研究授業
- (三宿中学校校長 岡部正直 記)

渋 谷 区

I. 研究主題

「実践的コミュニケーション能力の育成を目指した指導内容・方法の改善」

II. 活動の経過

- ◇5月17日 渋中研一斉部会
(於：松濤中)
 - ・組織作り
 - ・研究主題、年間研修計画の策定
 - ・少人数指導、ALTの活用状況について情報交換
 - ◇11月25・26日
全国英語教育研究大会参加
(於：昭和女子大学人見記念講堂・オリンピック記念青少年総合センター)
 - ◇12月26日
講演会 (於：笹塚中)
講師：元新宿区立中学校長
太田美智彦先生
(テーマ)
「writingを通して実践的コミュニケーション能力を図る」
－「まとまりのある文」を書くことの指導について－
 - 言語形式重視よりも伝達内容重視への指導が必要である。
 - key sentenceが書けるようになったら、文と文との連結 (cohesion) の原則に合わせて文を発展させていく。
 - 到達目標→決められた話題について、まとまった文を5文字程度書ける。
- (笹塚中学校長 島本環樹記)

中 野 区

I. 研究主題

「基礎基本の徹底と実践的コミュニケーション能力の育成をはかる指導の工夫」

II. 活動の経過

- ◇5月 中野区中教研部会
 - ・組織作り、研究主題、年間活動計画、情報交換
- ◇7月 サマーワークショップ
 - ・「地球人材」から講師を迎えてのワークショップ。主に入門期の教材について。
- ◇9月 英語部会
 - ・英語学会に向けての準備
 - ・ALTの活用の工夫
 - ・情報交換
- ◇11月 英語学会
 - ・英語劇、スピーチの発表
- ◇11月 中教研研究日
 - ・研究授業（中野七中）
 - ・授業者：亀山真由美（七中）
ALTとの授業で、終了後に研修会実施
- ◇2月 中教研研究発表会（二中）
 - ・「パソコンを活用した教材づくり」をテーマに、講師を招いてワークショップ開催

今年度は、区中教研の研究日が新設され、新たに研究授業を実施した。

（中野第六中学校 望月 厚 記）

杉 並 区

I. 研究主題

「実践的コミュニケーション能力を高める指導と評価～小学校との連携を見据えて～」

II. 活動の経過

- ◇4月19日 杉中教研英語部会総会
- ◇5月17日 杉中教研定期総会
- ◇8月2、3、4日
英語科夏季ワークショップ
講師：松香フォニックス研究所
所長：松香洋子先生他
新泉小：村山律子先生
和泉小：金野日和先生
- ◇8月24、25日 小学校英語教育研修
講師：松香フォニックス研究所
所長：松香洋子先生他
- ◇10月4日 幼・少・中一斉研修会
小学校英語授業スタイルの提言
「歌とリズムでLet me try!」
授業者：杉並区立新泉小学校
谷井美和子先生、村山律子先生
講師：松香フォニックス研究所
所長：松香洋子先生
- ◇11月18日 英語学芸発表会
- ◇12月3日 東京都英語学芸大会
参加校：杉並区立和田中学校
- ◇1月16日
英語科冬季ワークショップ
講師：駒澤女子大学助教授
太田 洋先生
- ◇1月24日 杉中教研一斉部会
発表者：石川史子先生
- ◇2月中旬
杉並区リスニングコンテスト
1・2年生対象

（東田中副校長 森戸 繁 記）

豊 島 区

I. 研究主題

「実践的コミュニケーション能力を育成する指導法の工夫」

II. 活動の経過

◇4月19日 区中研一斉部会

組織作り、研究主題、年間活動計画、小学校英語活動について、東京都英語集中研修への参加者の確認

◇7月26日 第2回区中研英語部会
(西池袋中)

内容：指導法の工夫について
少数指導について

◇11月8日 区中研一斉部会 (明豊中)

研究授業と研究協議

授業者：天野俊子教諭 (明豊中)

月尾 洋教諭 (明豊中)

講師：渡邊寛治 (文京女子大学教授)

「小・中英語活動について」

単元：2年 Lesson 6

「Ratona Talks about India」

◇2月20日

第3回区中研教科発表会 (西池袋中)

ワークショップ

講師：伊地知教諭

情報交換

・ALTの時数、少人数指導等

・小学校英語活動について

(西池袋中学校長 飯島光正 記)

北 区

I. 研究主題

「実践的英語コミュニケーション能力の育成」

・小学校英語活動との関連において中学校英語学習の在り方の検討

・中学校英語コミュニケーション授業の検証と今後の方向

II. 活動の経過

◇5月2日 区中研一斉部会

・組織作り、研究主題、年間活動計画、ALT活用要綱の確認

◇7月26日

・北区教科指導計画作成資料委員会発足。
(11月完成)

◇10月19日 教育一斉部会

研究授業 浮間中学校

有家香奈子先生

現在分詞と過去分詞の後置修飾

講師：富士見中学校長

小澤 決先生

◇2月15日 一斉部会

・VIDEO DONFERENCE (テレビ会議の実習)

アメリカとイスラエルの先生方が現地から参加 (4名)

・講師：桐ヶ丘中学校副校長

永嶋昌博先生

・講演：「小学校の英語活動を踏まえた
これからの英語学習の在り方」

・講師：北区教育委員会

清野 正指導主事

(富士見中学校長 小澤 決 記)

荒 川 区

I. 研究主題

「小中英語教育連携、特区による週4時間授業、習熟度別学習、ALTとのTT授業等を効果的に運営し生徒の英語力をいかに高めるか」

II. 活動の経過

- ◇4月19日 第1回研究部会
組織づくり、課題確認、年間予定
- ◇6月21日 第2回研究部会
講演会①「効果的な小中連携」「教科書活用」、森住衛（桜美林大学大学院、大阪大学）
- ◇9月13日 第3回研究部会
小・英語部との合同開催Ⅰ、授業研究①：清水貴子、河内亜矢、二葉剛司（八幡中）、渡邊時夫（清泉女学院大学、小学校英語教育学会）
- ◇11月8日 第26回スピーチコンテスト（サンパール荒川）
第五中3年 Yuka Nakamuraと南二中3年 Yusuke Katahiraが同点優勝、都大会出場は抽選で南二中に決定
- ◇11月15日 第4回研究部会
授業研究②：須賀英夫、駒澤正人、桜井直子（南二中）、佐藤令子（田園調布雙葉小学校、国士舘大学）
- ◇1月17日 第5回研究部会
小・英語部との合同開催Ⅱ、授業研究③：鳥塚真紀子（二日小）、東仁美（聖学院大学）
- ◇2月16日 第6回研究部会
講演会②、ワークショップ、一年間のまとめ

（諏訪台中主幹 平岡栄一 記）

板 橋 区

I. 研究主題

「書くことの指導と評価の在り方」

II. 活動の経過

- ◇4月19日 「区中研一斉部会」
役員選出、研究主題及び年間研究活動計画等の決定
- ◇7月7日 「1学期研究授業」
授業：標 清栄教諭（向原中）
長塚幸恵教諭（向原中）
Mr. Mat Brigham (ALT)
単元：ニュークラウン1 L3
- ◇8月23日 「夏季研修会」
「ALTとのTTの進め方」
- ◇11月10日 「英語のつどい」
出演校13校の発表
志村五中がプレイで都大会出場
- ◇11月15日 「区中研一斉研究授業」
授業：堀 恭子教諭（西台中）
単元：ニュークラウン1 L6
講師：練馬区立大泉中学校
津田雅子教諭
- ◇1月26日 「3学期研究授業」
授業：福島悦子教諭（板橋五中）
単元：ニュークラウン1 L7
講師：ALT
- ◇2月7日 「区中研研究発表」
「書くことの指導と評価の在り方」
〈研究発表〉
板橋二中、板橋三中、板橋五中
〈指導序言・講演〉
駿河台大学 佐野富士子教授
（板橋第三中学校長 稲葉秀哉 記）

練馬区

I. 研究主題

基礎・基本の定着を図り、実践的コミュニケーション能力の基礎を培う。(ア) 4技能を関連させた効果的な指導の工夫・改善を図る。(イ) ALT等の効果的な活用を図り、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。(ウ) 英語科教員の資質向上を図るため、夏期研修や授業研究を充実させる。

II. 活動の経過

- ◇5月17日 区中研一斉部会
組織・研究目標・年間活動計画決定
- ◇6月21日 学力調査委員会報告会
授業者：伊地知可奈教諭（八坂中）
- ◇8月2日～4日 夏期研修会
「教科書編修と英語教育の改善」講師：下村勇三郎先生（日本橋女学館大学講師）「日本人の英語運用能力の向上」講師：竹下裕子先生（東洋英和女学院大学教授）*「コミュニケーション・テストイング」講師：根岸雅史先生（東京外国語大学教授）*「中学校へ繋がる小学校の英語活動」講師：アレン玉井光江先生（文京学院大学教授）*「指導と評価の一体化」講師：山本新治先生（前 関中学校長）
- ◇10月2日 少人数制授業研究会
荒木、山田、高橋教諭（北町中）
- ◇11月5日 英語学芸会 12校参加
“Taro Urashima and the Sea Princess”
（豊玉中）都大会に参加して優勝
- ◇11月8日 授業研究会
授業者：山岸順子教諭（大泉学園中）
- ◇2月7日 TT授業研究会（関中）
（中村中学校 平林澄子 記）

足立区

I. 研究主題

「基礎学力の定着をはかる指導力の向上」

II. 活動の経過

- ◇4月12日 役員会
新役員顔合わせ、役割分担、年間計画作成
- ◇4月20日 一斉教科部会
役員、ブロック長紹介、夏季研修会、区連合英語学芸会について
- ◇6月21日 研修会
テーマ：「三省堂の教科書の特色を生かした授業の展開」
講師：東京学芸大学附属世田谷中学校 日臺滋之先生
- ◇8月3日 夏季研修会
テーマ1：三省堂の教科書の特色を生かした授業の展開
講師：練馬区立大泉中学校 津田雅子先生
テーマ2：学力向上に向けて英語部として
講師：足立区教育委員会 指導主事 西貝裕武先生
- ◇10月20日 区連合英語学芸会
15校参加
スピーチ部門1位 西新井中
演劇部門1位 蒲原中
- ◇2月7日 一斉教科部会
・研究授業
授業者：玉木由美教諭（花畑北中）
・報告会
・本年度まとめと反省
・次年度に向けて
（花畑北中学校 玉木由美 記）

葛 飾 区

I. 研究主題

「基礎学力をつけ、コミュニケーション能力の育成を育成する英語教育」

II. 活動の経過

- ◇4月24日 A L T導入全校説明会、割当調査会議
- ◇5月17日 葛中研全員部会
事業報告、会計報告、役員選出、事業計画、予算案、情報交換
- ◇8月23日 研究協議会（高砂中）
「英語の基礎学力向上に向けて」
- ◇9月21日 研究協議会（高砂中）
「基礎学力の向上を図る授業法」
講師：関口 智教諭（常盤中）
- ◇9月28日 役員・スピーチ&プレイコンテスト運営委員会：事前打ち合わせ
- ◇10月11日 葛中研一斉研究授業
対 象：1年生
授業者：神志那智子教諭（綾瀬中）
講 師：長江宏先生（元清泉女学院短期大学教授・副学長）
- ◇10月12日 第21回葛飾区中学校英語スピーチ&プレイコンテスト（かめりありリオホール）レシテーション：12名、プレイ1校、スピーチ21名参加
- ◇2月 研究授業・研究協議会
授業者：未定
協 議：コミュニケーション能力を身につける授業
- ◇3月 役員会
18年度反省と19年度計画、予算
（高砂中学校長 余野直紀 記）

江 戸 川 区

I. 研究主題

「実践的コミュニケーション能力を育成するための指導方法の研究と授業力の向上」

II. 活動の経過

- ◇5月10日 区中研総会・役員会
研究主題、活動計画、組織づくり
- ◇5月27・28日 「青少年の翼」（中・高校生海外派遣）英語面接委員
- ◇6月29日 英語部研修会
研究授業：西村千代子教諭
（小松川第一中）
講師：Mr. Ron Martin（アイエック・英語教育コンサルタント）
- ◇8月29日 夏季研修会（講義・演習）
講師：長 勝彦先生（武蔵大学客員教授）
Mr. Ron Martin（アイエック）
門松裕之先生（墨田・文花中教諭）
安野寿美先生（小岩第一中教諭）
- ◇11月8日 区中研一斉研究部会
研究授業：小笠原淳教諭（西葛西中）
講師：高山芳樹先生（東京学芸大学大学院助教授）
- ◇2月2日 英語部研修会
テーマ：実践的コミュニケーション能力を育成するための指導方法の研究
内容：①関プロ・全英連の報告
②授業に関するビデオ鑑賞 etc.
- ◇その他
スプリングコンテスト（区内全中学校の2・3年生全員に実施）
（松江第四中学校長 加藤良則 記）

八 王 子 市

I. 研究主題

「教科書の実践的な活用」

II. 活動の経過

- ◇4月11日 A L T担当者連絡協議会
・A L Tとの顔合わせ、年間活動計画の決定
- ◇4月17日 中教研英語科主任会
・組織作り、研究主題
- ◇7月31日・8月1日
八王子市パワーアップ研修
講師：東京学芸大学附属世田谷中学校
日臺滋之先生
テーマ：英語科の課題と指導法－聞くこと。話すことを中心に、教科書の効果的な活用法
講師：八王子市立第五中学校
山下喜世子先生
テーマ：新しく採用された教科書の効果的な活用法
講師：江東区深川第八中学校
本多敏幸先生
テーマ：教科書を用いた指導方法－教科書の言語材料を用いた話す活動－
講師：駒沢女子大学
太田 洋先生
テーマ：英語科の授業の実践事例
- ◇9月12日 A L T担当者連絡協議会
・中間報告
- ◇10月4日 中教研英語部一斉部会
講師：東京国際大学
堀口六壽先生
テーマ：英語教師が身に付けなければならないコミュニケーション能力
(甲ノ原中学校 沢田正純 記)

西 多 摩 地 区

I. 研究主題

「コミュニケーション活動を中心とした授業の工夫」

II. 活動の経過

- ◇西多摩地区中学校教育研究会
英語部会 一斉部会
5月17日(水) 14:30～
場所：あきる野市立東中学校
内容：17年度会計報告と18年度事業計画
- ◇中教研英語部会 夏季研修会
8月29日(火) 9:00～12:00
場所：あきる野市立秋多中学校
講師：東京都立両国高等学校附属中学校
山本崇雄
内容：「二学期に生かせる教材と授業の工夫」
対象：中教研英語部会員
*講師の方の内容が非常に良く午前中だけでは時間が足りないという意見も頂けた。
- ◇研究授業
1月18日(木) 13:30～
授業者：神原あや
(瑞穂町立瑞穂第二中学校)
内容：授業参観後、授業内容についての討議、意見交換を行う。
*来年度から、福生市とあきる野市が抜ける予定になっており、中教研英語部会の人数の減少が予想されます。
(秋多中学校 奥野幸子 記)

町 田 市

I. 研究主題

「コミュニケーション能力を高める指導及び評価の工夫」

II. 活動の経過

- ◇4月12日 町田市中教研一斉部会
 - ・研究主題、活動計画、組織作り
- ◇5月17日 町田市中教研定期総会
 - ・予算案の承認
- ◇7月24日 夏のワークショップ
 - ・「リズム感のある50分授業のデザイン
の仕方」
 - 講師：府中市立府中第二中学校
田口 徹先生
 - ・「中高6年間を見通した指導・評価
の構造改革」
 - 講師：筑波大学附属駒場中・高校
久保野雅史先生
- ◇11月15日 町田市中教研一斉部会
 - ・各校より資料（ワークシート、テスト
など）を持ち寄り意見交換
- ◇2月14日 研究発表会
 - ・各学校で行われた実践を発表
(金井中学校 丸橋秀哉 記)

日 野 市

I. 研究主題

「言語活動を積極的に取り入れた授業」
・研究授業を中心とし、指導事例を共有
することによってよりよい授業づくり
の工夫を学びあう。

II. 活動の経過

- ◇5月10日 日野市中教研定期総会
組織作り、研究主題、年間活動計画の決定
- ◇6月7日 模擬授業
対 象：日野二中 3年生
授業者：竹村きよみ
「日常の授業の中の言語活動」
- ◇7月4日 部会
 - ・今年度ALTの中間報告
 - ・来年度ALTの配置について
 - ・基礎基本テキスト作成について
- ◇9月6日 研究授業
対 象：日野四中 3年生
授業者：緒方雄貴仁
「チャットを取り入れた授業」
講 師：練馬区立関中学校前校長
山本新治先生
- ◇10月3日 研究授業
対 象：平山中 2年生
授業者：大川京子
「教科書本文の音読活動」
講 師：新宿区立牛込第三中学校長
竹田秋人先生
- ◇11月1日 紀要のまとめ、原稿作成
- ◇2月14日 日野市中教研
研究発表会
(日野第二中学校 竹村きよみ 記)

青 梅 市

I. 研究主題

5月17日、市内中学校教育研究会英語研究部会を開催し、本年度の役員選出に続き、研究主題及び活動方針・活動内容などについて意見を交換した。

研究主題は「コミュニケーションな活動を重視した授業およびTTの工夫」とした。

II. 活動の経過

◇7月7日

AET日程調整会議において、小学校のAET担当者も交え、AETのより効果的な活用方法について意見を交換した。

◇1月11日

江東区立深川第八中学校教諭である本多敏幸先生を講師に迎え、聞く、話す、読む、書く、それぞれの能力の向上と授業の活性化について研修した。

III. 英語科学習指導資料集作成

市内11校の日本人の英語教師とAETとのチーム・ティーチングの指導事例などを集めた資料集を作成した。

主な内容は、以下の通りである。

- ①ねらい
- ②各学年の活動の概要
- ③実践事例
- ④成果と課題
- ⑤AETの声（感想や提言）

今年度は第19集目となる歴史ある実践指導事例集であり、授業で直ぐに役立つヒント等を集めたもので、各校の授業で活用している。

（第六中学校副校長 当間一則 記）

多 摩 市

I. 研究主題

「少人数指導やTT指導の効果と個に応じた指導の実践」

II. 活動の経過

◇5月17日 多摩市中教研一斉部会
組織作り・研究主題の決定
年間活動計画の決定・予算の決定
ALT派遣年間計画の決定

◇6月14日 第一回研究授業・協議会
実施校：多摩市立貝取中学校 3年
授業者：横山牧子教諭

Edward Weinzierl氏

講師：千葉正法統括指導主事

石井正広指導主事

テーマ：TTによる生徒の意欲を引き出す指導

◇10月10日 第二回研究授業・協議会
実施校：多摩市立諏訪中学校 1年
授業者：酒井 陽教諭
形態：少人数クラス
講師：福田洋一指導主事

◇11月14日 第三回研究授業・協議会
実施校：多摩市立和田中学校
授業者：横山達也教諭

Alan Welch氏

形態：ALTとTT

◇1月31日 第四回研究授業・研究会
実施校：多摩市立鶴牧中学校
授業者：高麗隆治教諭

Lisa Maki氏

形態：少人数でALTとのTT

◇2月19日 ワークショップ（鶴牧）

講師：石井史子氏

（鶴牧中学校 宇佐美曜子 記）

稲 城 市

I. 研究主題

「進んで英語を使ってコミュニケーション活動をする児童・生徒の育成（教材・教具の開発・工夫）」

II. 活動の経過

- ◇4月19日 稲教研一斉部会
 - ・組織作り、研究主題の設定、年間活動計画の作成
- ◇5月10日 全体会及び小中分科会
 - ・年間活動計画の作成
- ◇6月14日 全体会及び小中分科会
 - ・小学校英語活動について
 - ・今年度新規採択教科書の研究（講師：東京書籍編集部部長）
- ◇8月25日 全体会及び小中分科会
 - ・稲城市マイスターティーチャー研修への参加
 - ・研究授業指導案の研究
- ◇9月13日 研究授業（小学校6年生）
 - ・授業者：星野由里子教諭（稲城第六小学校）
- ◇10月18日 研究授業（中学校2年生）
 - ・授業者：丹小幸宣教諭（稲城第三中学校）
- ◇11月8日 全体会及び小中分科会
 - ・研究授業の振り返り
 - ・研究発表準備
- ◇1月10日 全体会及び小中分科会
 - ・研究のまとめと次年度への課題
 - ・研究発表準備
- ◇2月7日 稲教研一斉部会
 - ・研究発表会
 - ・今年度のまとめ（稲城第五中学校 堀恵美子 記）

大 島

I. 研究主題

「ALTの活用と授業法－基礎学力の定着と、自然なコミュニケーションの両立を目指した指導法の工夫－」

II. 活動の経過

- ◇4月19日 町中学英語研究会
 - ①平成17年度活動報告
 - ②平成18年度組織作り 役員選出・研究主題の設定・年間活動計画の検討
 - ③ALTとの授業に関する情報交換
- ◇6月28日 教育研究会英語部会
 - ①定期考査についての研修
 - ②情報交換と検討
- ◇10月18日
 - ①研究授業
場 所：第三中学校
対 象：第2学年
授業者：松島睦磨先生
 - ②情報交換
- ◇10月23・24日
 - ①小学校との連携授業
場 所：つばさ小学校
対 象：4年生
- ◇12月6日 英語部会
 - ①ALTとの情報交換
- ◇2月7日
 - ①研究授業（予定）
場 所：第二中学校
対 象：第2学年
授業者：谷所 篤先生
 - ②研究協議：本年度の反省と来年度の課題
(第一中学校 吉本洋人 記)

平成18年度
中英研事業報告

1. 4月18日(火) 役員会
於：神楽坂エミール
 - ①役員組織等の確認
 - ②年間事業計画の検討
 - ③中英研定期総会に向けて
 - ④役員会の日程
 - ⑤関プロ千葉大会
 - ⑥全英連関係等
2. 5月19日(水) 定期総会・懇親会
於：神楽坂エミール
 - ①17年度事業報告
 - ②17年度決算報告
 - ③17年度会計監査報告
 - ④新役員の承認
 - ⑤18年度基本方針の承認
 - ⑥18年度事業計画・予算の承認
 - ◎懇親会
3. 6月13日(火) 役員会
於：神楽坂エミール
 - ①全中連中学校部研究協議会について
及び全英連東京大会について
 - ②関プロ千葉大会について
 - ③地区部長、幹事名簿について
 - ④十四大都市大阪大会について
 - ⑤中英研だよりについて
 - ⑥サマーワークショップ関係
 - ⑦コミュニケーションテストについて
4. 7月1日(火)
「都中英研だより」第51号発行
5. 7月11日(火) 役員会
於：神楽坂エミール
 - ①全英連中学部研究協議会について
 - ②関プロ千葉大会進捗状況
 - ③サマーワークショップ関係
6. 7月27日(木) 全英連中学部会
研究協議
於：神楽坂エミール
講演：「中学校英語教育における現在の課題」
講師：平田 和人氏
(文部科学省初等中等教育局教科調査官)
7. 7月～8月
中英研学力調査問題の作成
8. 8月2日(水) 第1回研究部夏期語い
指導ワークショップ
於：品川区立小中一貫校日野学園
指導者：岡崎 伸一
(品川区立小中一貫校日野学園教諭)
北原 延晃
(狛江市立狛江第一中学校教諭)
- 8月2日(水) 第2回研究部夏期語い
指導ワークショップ
於：狛江市立狛江第一中学校
指導者：石井 亨
(江東区立第二南砂中学校教諭)
関口 智
(葛飾区立常盤中学校教諭)
鶴田 峰子
(中央区立銀座中学校教諭)
- 8月22日(水) 第3回研究部夏期語い
指導ワークショップ
於：江東区立第二南砂中学校
指導者：溪内 明
(大田区立東調布中学校教諭)
原田 博子
(江東区立深川第一中学校教諭)
9. 8月17日(木)
英語科教員サマーワークショップ
於：文京区立第一中学校
 - ①各種研究大会の確認
 - ②各区市町村英語教育研究部長・地区
幹事研究協議会について
10. 8月25日(木) 於：神楽坂エミール
各区市町村英語教育研究部長・地区
幹事研究協議会
於：神楽坂エミール

- ①ディベートができるようになるための指導の在り方
②生徒をひきつける指導・評価の工夫
講師：松本 茂
(立教大学教授)
久保野雅史
(筑波大学附属駒場中・高等学校教諭)
11. 8月28日(月) 役員会
於：文京区立第十中学校
①関プロ千葉大会について
②全英連東京大会について
③コミュニケーションテスト問題の検討
12. 9月29日(金) 役員会
於：神楽坂エミール
①関プロ千葉大会関係
②全英連東京大会への取り組み
③都中英研ホームページについて
13. 10月13日(金)
第46回14大都市公立中学校英語教育研究連絡協議会
於：大阪市
14. 10月23日(月) 役員会
於：神楽坂エミール
①関プロ千葉大会について
②全英連東京大会への取り組み
③都教職員研修センターとの連携について
15. 11月1日
「都中英研だより」第52号発行
16. 11月10日(金)
第30回関プロ千葉大会 於：千葉市
主題「国際社会を生きる日本人の育成」
ー基礎・基本の定着から実用使用への発展的指導を通してー
17. 11月13日(月) 授業力アップ研究会
於：文京区立第十中学校
①研究授業 小寺令子教諭
②研究協議会
講師：安原美代
(三鷹市立第三中学校長)
18. 11月25日(土)・26日(日)
第56回全国英語研究大会東京大会
於：昭和女子大学人美記念講堂
国立オリンピック記念青少年総合センター
19. 11月28日(火) 役員会
於：神楽坂エミール
①都英語学芸大会について
②コミュニケーションテストについて
③研究部授業公開と研究発表
④全英連組織改善について
20. 12月3日(日) 第59回英語学芸大会
於：宝仙学園
21. 1月23日(火) 役員会
於：神楽坂エミール
①研究部発表会の準備
②平成19年度役員人事案
③全英連組織改善について
④平成19年度事業計画について
22. 2月23日(金)
中英研研究部発表会
於：府中市立第二中学校
①研究授業：田口 徹教諭
②研究発表「語彙と英語教育(30)」
③指導講師：長 勝彦先生
(武蔵野大教授)
23. 2月27日(月) 役員会
於：神楽坂エミール
①研究部発表会の報告
②平成19年度役員人事について
③次年度活動計画について
④中英研ホームページについて
24. 2月下旬「中英研会報」第65号発行
25. 3月初旬 役員会
①18年度各部事業報告
②18年度決算報告
③次年度新役員構成の確認
④次年度総会について
⑤情報交換
⑥研修会
(総務部長：飯島 光正 記)

東京都中学校英語教育研究会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は東京都中学校英語教育研究会と称する。
- 第2条 本会は事務局を会長の場所に置く。
- 第3条 本会は東京都中学校の英語教育関係者を会員とする。

第2章 目的及び事業

- 第4条 本会は中学校英語教育に関する事項を研究し、会員の識見の向上に努めると共に、英語教育の振興を図ることを目標とする。
- 第5条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
1. 各種研究会の開催（研修会、発表会、講演会等）
 2. 研究調査（コミュニケーションテスト、入試問題分析等）
 3. 各種英語教育団体との連絡
 4. 機関誌発行、図書推せんおよび刊行
 5. その他、本会の目的達成に必要な事業

第3章 役員及び幹事

- 第6条 本会には次の役員および幹事をおく。
1. 会長1名
 2. 副会長若干名
 3. 部長各部ごと1名
 4. 副部長各部ごと若干名
 5. 会計監査2～3名
 6. 幹事各区市ごとに1～2名
- 第7条 役員の実選は次のとおりとする。
1. 会長・副会長は役員会の推薦により、総会の承認を得なければならない。
 2. 部長・副部長は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
 3. 会計監査は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
- 第8条 役員の実務は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総括する。
 2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行すると共に、各部を分担する。
 3. 部長は担当副会長と協議の上、部会を召集し、会務を執行する。
 4. 幹事は本部との連絡にあたる。

5. 事務局は総務部が担当し、事務局長は総務部長があたる。
6. 会計監査は会計の監査を行い、その結果を総会に報告する。

第9条 役員の任職は1年とする。ただし、再任を妨げない。

第10条 本会に相談役、参与及び顧問をおくことができる。

1. 相談役はOB会長及び副会長より、参与は現職校長より役員会の推薦により会長が委嘱する。
2. 顧問は英語科出身の指導主事より会長が委嘱する。

第4章 会 議

第11条 会議は次のとおりとする。

1. 総 会 毎年1回会長が召集し、会務の報告、役員的人事、予算、決算等を審議し、決定する。ただし、必要がある場合は臨時に開くことができる。
2. 役員会 会長・副会長・部長をもって構成し、必要に応じて副部長・会計監査を加え、会長の諮問機関とする。
3. 幹事会 役員・幹事をもって構成し、学期1回以上例会を開き、会務を執行する。

4. 部 会

- | | |
|-----|---|
| 総務部 | 庶務・会計・渉外および他部に属さない事項の処理 |
| 事業部 | 会の年間計画・英語学会・研修会、その他会長より委嘱された事業の立案・計画・推進 |
| 調査部 | コミュニケーションテストほかに英語教育に関する調査の実施 |
| 研究部 | 英語教育に関する研究の推進ならびに授業研究の実施 |
| 出版部 | 中英研だより・会報などの発行 |

第5章 会 計

第12条 本会の会費は東京都中学校研究会よりの交付金をもってあてる。

第13条 本会の経費は会費およびその他の収入による。

第14条 本会の予算・決算は総会の承認を得なければならない。

第15条 本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 付 則

第16条 本会則は昭和60年4月1日より実施する。

第17条 本会則の変更は総会の承認を得なければならない。

第18条 細則は幹事会で定めることができる。

平成18年度 東京都中学校英語教育研究会役員名簿

役名	氏名	所 属 校	職 名
会 長	備里川正人	足立区立第六中学校	校 長
副 会 長	坂下孝憲	大田区立馬込中学校	"
"	鬼原芳枝	江戸川区立小岩第四中学校	"
"	中村馨	文京区立第十中学校	"
"	本庄文男	足立区立谷中中学校	"
"	山本展子	江東区立第二大島中学校	"
"	清水研一郎	江東区立深川第五中学校	"
"	加藤良則	江戸川区松江第四中学校	"
"	田幸徹	足立区立花畑北中学校	"
"	大野容義	昭島市立清泉中学校	"
会計監査	和田雅光	足立区立第四中学校	"
"	稲葉秀哉	板橋区立板橋第三中学校	"
"	竹下賢	渋谷区立松濤中学校	"
総務部長	飯島光正	豊島区立西池袋中学校	校 長
"	牛島順子	港区立朝日中学校	副 校 長
副 部 長	五十嵐義征	大田区立志茂田小学校	校 長
"	藤原進	大田区立大森第一中学校	教 諭
"	石川真知子	足立区立第九中学校	主 幹
部 員	田中誠一郎	東村山市立第四中学校	教 諭
"	福島恵子	練馬区立光が丘第三中学校	"
"	近藤浩	東久留米市立久留米中学校	"
"	堀之内国義	渋谷区立本町中学校	"
"	石川容子	足立区立第十二中学校	"
"	新野美紀	板橋区立赤塚第一中学校	"
"	滝口均	世田谷区立八幡中学校	"
"	長尾諭	大田区立石川台中学校	"
事業部長	横山達也	多摩市立和田中学校	教 諭
副 部 長	田口徹	府中市立府中第二中学校	"
"	田島久士	世田谷区立喜多見中学校	"
"	相沢隆二	文京区立第一中学校	"

役名	氏名	所属校	職名
部員	米澤登志子	中野区立第十一中学校	教諭
"	多田 涉	江戸川区立小松川第三中学校	"
"	吉澤ひとみ	足立区立第九中学校	"
"	明石達彦	千代田区立九段中等教育学校	"
"	大屋 剛	練馬区立関中学校	"
"	斉藤節子	清瀬市立清瀬第二中学校	"
"	竹中敬子	多摩市立和田中学校	"
"	山口由美子	府中市立府中第二中学校	"
"	漆畑拓也	世田谷区立船橋中学校	"
調査部長	廣田幸男	小平市立花小金井南中学校	校長
副部長	重松 靖	国分寺市立第二中学校	副校長
"	門松裕之	墨田区立文花中学校	主幹
"	山口直美	港区立赤坂中学校	教諭
部員	鈴木 悟	港区立港南中学校	"
"	阿久津仁史	文京区立第八中学校	"
"	兼子真季	文京区立本郷台中学校	"
"	本多敏幸	江東区立深川第八中学校	"
"	斉藤 豊	江東区立第三亀戸中学校	"
"	小寺令子	文京区立第十中学校	"
"	佐藤恵美	墨田区立文花中学校	"
"	白川智恵子	北区立清至中学校	"
"	小椋由紀子	荒川区立第三中学校	"
"	伊地知可奈	練馬区立八坂中学校	"
"	大澤陽子	杉並区立阿佐ヶ谷中学校	"
"	今井一憲	中野区立中央中学校	"
"	山下郁子	世田谷区立若林中学校	"
"	阿坂真人	日野市立第四中学校	主幹
"	大谷内千秋	三鷹市立第一中学校	教諭
"	川口美保子	府中市立第三中学校	"
"	岸川裕子	府中市立第一中学校	"
"	野口哉寿子	小平市立第六中	学 校

役名	氏名	所屬校	職名
部員	田中すみ子	豊島区立西巢鴨中学校	教諭
"	大森博	練馬区立中村中学校	"
"	三木謙二郎	大田区立馬込中学校	"
"	木村弘恵	世田谷区立砧南中学校	"
"	松下容子	世田谷区立砧南中学校	"
研究部長	北原延晃	狛江市立狛江第一中学校	教諭
副部長	石井亨	江東区立第二南砂中学校	"
"	鶴田峰子	中央区立銀座中学校	"
"	関口智	葛飾区立常盤中学校	"
部員	二宮正男	新宿区立西戸山中学校	"
"	原田博子	江東区立深川第一中学校	"
"	溪内明	大田区立東調布中学校	"
"	杉本薫	江東区立東陽中学校	"
"	日臺滋之	学芸大付属世田谷中学校	"
"	岸由季	町田市立山崎中学校	"
"	矢木美記子	板橋区立高島第三中学校	"
"	岡崎伸一	品川区立日野学園中学校	"
"	山本崇雄	都立両国高校付属中学校	"
"	坂田恵子	北区立飛鳥中学校	"
"	丸山篤広	大田区立羽田中学校	"
"	福井洋子	稲城市立第三中学校	"
"	横山牧子	多摩市立貝取中学校	"
"	花田佐知子	杉並区立和田中学校	"
"	永松朋美	江東区立第三砂町中学校	"
出版部長	井田宗宏	東久留米市立東中学校	校長
副部長	平林澄子	練馬区立中村中学校	教諭
"	渡辺雅子	足立区立六月中学校	"
"	小柳守生	文京区立第十中学校	"

役名	氏名	所属校	職名
部員	下路博朗	足立区立第四中学校	教諭
"	三岡一隆	練馬区立石神井西中学校	"
"	今本由美子	練馬区立大泉中学校	"
"	中井正弘	東久留米市立中央中学校	"
"	田中典子	足立区立江北中学校	"
"	鈴木咲子	東久留米市立大門中学校	"
"	赤塚貴音	練馬区立大泉第二中学校	"
"	岡部芳枝	文京区立文林中学校	"
"	岡田美保	江戸川区立瑞江中学校	"

プロジェクトチーム部

役名	氏名	所属校	職名
部長	安原美代	三鷹市立第三中学校	校長
副部長	石川賢司	墨田区立墨田中学校	副校長
部員	原田博子	江東区立深川第一中学校	教諭
"	上尾恵美子	足立区立竹の塚中学校	"
"	岸川裕子	府中市立府中第一中学校	"
"	大内由香里	江戸川区立葛西第三中学校	"
"	小柳守生	文京区立第十中学校	"
"	佐藤順一	江東区立南砂中学校	"

平成18年度 顧問

氏 名	役 職
高野敬三	指導部高等学校教育指導課長
阿字宏康	練馬区指導室長
石鍋浩	稲城市指導室長
宇田剛	青梅市指導室長
田谷至克	教職員研修センター研修部教育開発課指導主事
坂本純一	教職員研修センター企画課統括指導主事
松永透	教職員研修センター研修部授業向上指導主事
新庄惠子	港区教育委員会統括指導主事
岩崎紀美子	指導部義務教育心身障害教育指導課指導主事
宮野聡	指導部高等学校教育指導課統括指導主事
永森比人	学務部高等学校教育課指導主事
久下尚	学務部高等学校教育課指導主事
紺谷祥一	学務部高等学校教育課指導主事
長嶋浩一	学務部高等学校教育課指導主事
大泉昌明	人事部試験室指導主事
清野正	北区教育委員会指導主事
中原明	杉並区教育委員会指導主事
大槻亨	豊島区教育委員会指導主事
西貝裕武	足立区教育委員会指導主事

参 与

氏 名	学 校 名	職 名
竹田秋人	新宿区立牛込第三中学校	校 長
島本環	渋谷区立笹塚中学校	”
園田俊雄	練馬区立大泉第二中学校	”
大山明	練馬区立田柄中学校	”
近藤悦朗	江東区立深川第二中学校	”
増田裕康	目黒区立第一中学校	”
山崎勉	世田谷区立東深沢中学校	”
鈴木茂生	八王子市立鏈水中学校	”
小澤直	北 区立富士見中学校	”
余野直紀	葛飾区立高砂中学校	”
斉藤進	荒川区立尾久八幡中学校	”
篠原温	江戸川区立小岩第二中学校	”
鈴木博久	八王子市立第二中学校	”
原田承彦	町田市立忠生中学校	”

あ と が き

各地区で、授業改善研究会が意図的・計画的に進められています。また初任者研修だけではなく、節目節目ごとに教員の指導技術向上のための研修会も盛んに開催されるようになってきました。何度かそのような研修会を参観する機会に恵まれましたので、まず、その感想を述べることにします。

teaching procedureの中で導入が占める重要さについて改めて言及する必要はないと思います。導入がうまくいけば、その授業は半ば成功したものと考えても良い程です。生徒をmotivateさせ授業にうまくparticipateさせようと思うなら最も効果的なpresentationを行うことが必要です。

日常的に上手に導入するために欠くことができないのはhealthy little surpriseを与える指導技術だと考えています。少なくとも毎時間同じ方法で導入するのではなく、その時間ごとに、変化をもたらすことで「あれ」と思わせることが大切です。快い驚きは意外と効果を生むものです。

心理学者も「導入を変えることでmotivationを維持し、生徒の興味を刺激しなさい。」と指摘しています。生徒は概して、動機づけられたときには、一層頑張って、意欲的に勉強に取り組もうとするものです。クラスの全員の生徒に一樣に高い動機づけをすることは無理だとしても、教師は多様な方法を工夫し、より効果的に授業に導入できるようにすべきです。

また、一方ではone patternの授業から脱却し、communicative competenceが養える授業の組み立てが求められています。できるだけ生徒をreal life situationに置き、自発的・創造的な活動をさせるために、既習のvocabularyだけでなく必要であれば未習であっても自分で探せる方向に指導目標を転換することも必要になります。これは文字による情報伝達の大切さに加えて、aural-oralな口頭による情報伝達の重要性を裏付けています。

今年度の会報の中にも新しい英語教育の流れに注目した研究が収録されています。特に実践的な研究に関わる内容は、苦勞の跡がにじんでいます。

最後になりましたが「第65号 都中英研会報」の発行にあたり、お忙しい中、ご執筆いただきました先生方に厚くお礼申し上げますとともに、会員の先生方の一層のご発展をお祈りいたします。

[東久留米市立東中学校長 井田 宗宏]

都中英研会報 第65号

平成19年3月2日印刷
平成19年3月9日発行

発行者 東京都中学校英語教育研究会
代表者 備里川 正人

発行所 東京都中学校英語教育研究会
東京都足立区立第六中学校
東京都足立区本木西町16-1
TEL (03) 3898-7491

印刷所 オフィス・サンライズ(株)
東京都大田区鶴の木3-7-8
TEL (03) 5741-3146